SONY®

目次

やりたいことから探す

HOME/MENUから探す

索引

Cyber-shot

サイバーショットハンドブック

DSC-T90/T900

4-130-938-**01**(1)

JP

ハンドブックの便利な使いかた

右側にあるボタンをクリックすると、該当ページに移動します。
見たい機能を探したいときに便利です。

本文中に記載されたページ数部分をクリックしても、各ページに移動します。

本文中のマーク/記載内容について

ハンドブックでは、操作の手順を→で表現しています。この順に従って、画面をタッチしてください。マークはお買い上げ時の状態のもので載せています。

お買い上げ時の設定は✔で表しています。

カメラを正しく動作させるための注意や制限事項を記載しています。

知っておくと便利な情報を記載しています。

操作前のご注意

表示言語について

本機では日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

本機で使用できる"メモリースティック"(別売)についてのご注意

"メモリースティック デュオ"：本機で使用可能です。

"メモリースティック"：本機では使用できません。

その他のメモリーカードは使用できません。

- "メモリースティック デュオ"について詳しくは、167ページをご覧ください。

"メモリースティック デュオ"を"メモリースティック"対応機器で使用する場合

"メモリースティック デュオ" アダプター（別売）に入れると使用可能です。

"メモリースティック
デュオ" アダプター

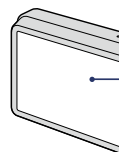
バッテリーについてのご注意

- 初めてお使いになるときは、バッテリー（付属）を必ず充電してください。
- バッテリーを使い切らない状態でも充電できます。また充電が完了しなくても途中まで充電した容量分はお使いいただけます。
- バッテリーを長持ちさせるために、長期間使用しない場合は、本機で使い切った後、バッテリーを取りはずして湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- バッテリーについて詳しくは、169ページをご覧ください。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、シャープで、コントラストが良い画像を作り出すことを可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ カール ツァイスの品質基準に基づき、カール ツァイスによって認定された品質保証システムにより生産されています。

液晶画面およびレンズについてのご注意

- 液晶画面は有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。

- 液晶画面に水滴などがついて濡れてしまった場合は、すぐに柔らかい布でふき取ってください。放置すると液晶画面の表面が変質したり劣化して故障の原因になります。
- 液晶画面やレンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所で使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。
- 本機のレンズ部をぶつけたり、無理な力をかけないようご注意ください。

本書中の画像について

画像の例として本書に記載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

イラストについて

本書のイラストや画面上の表示は特に説明が必要なところを除きDSC-T900を使用しています。

目次

ご使用の前に

撮る

見る

HOMEを使う

MENU（撮影）を使う

MENU（再生）を使う

テレビで見る

パソコンを使う

プリントする

困ったときは

その他

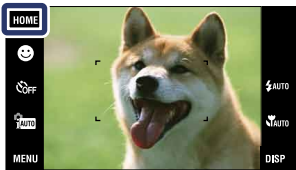
索引

やりたいことから探す

HOME/MENUから探す

HOME一覧

ホーム画面とは、撮影・再生・印刷など、カメラでできることをお客様の使いたい目的に応じて大きく分類し、選択できるようにした画面です。

1 HOMEをタッチしてホーム画面を表示する

2 カテゴリー → 項目 → OKの順にタッチする

シャッターボタンを半押しすると、撮影モードに戻る。

下の表の「項目」をクリックすると、該当ページに移動します。

カテゴリー	項目	
撮影	撮影	
画像再生	日付ビュー *1 イベントビュー *1 お気に入り*1 フォルダビュー	
スライドショー	スライドショー	
	BGMツール	BGMダウンロード BGMフォーマット
印刷	印刷	
メモリー管理	メモリーツール — “メモリースティック”ツール*1	フォーマット 記録フォルダ作成 記録フォルダ変更 記録フォルダ削除 コピー ファイル番号
	メモリーツール — 内蔵メモリーツール	フォーマット ファイル番号

次のページにつづく↓

カテゴリー	項目	
設定	本体設定 — 本体設定1	操作音 機能ガイド 設定リセット キャリブレーション ハウジング デモモード
	本体設定 — 本体設定2	HDMI解像度（DSC-T900のみ） HDMI機器制御（DSC-T900のみ） コンポーネント出力 ビデオ信号出力 TVタイプ USB接続
	撮影設定 — 撮影設定1	AFイルミネーター グリッドライン デジタルズーム
	撮影設定 — 撮影設定2	縦横判別 オートレビュー
	時計設定	
	表示言語*2	

*1 "メモリースティック デュオ"使用時のみ表示されます。

*2 本機は日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

ご注意

- 本機の画面には、設定できる項目のみが表示されます。
- PictBridge/USB接続中は、ホーム画面が表示されません。

MENU一覧（撮影）

撮影中に見えている画面に対して使える機能を表示して、手軽に設定できます。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 MENUをタッチしてメニュー画面を表示する

3 メニュー項目 → 希望の項目 → OKの順にタッチする

希望の項目がすでに選択されている場合は、✕が表示されます。

下の表では、○は設定可能、－は設定不可能を表しています。「シーンセレクション」の下のアイコンは、設定できるシーンセレクションのモードを表しています。
「メニュー項目」の各項目をクリックすると、該当ページに移動します。

メニュー項目 ＼ 撮影モード	iAUTO	PGM	シーンセレクション	EASY	動画
画像サイズ	○	○	○	○	○
フラッシュ	－	－	－	○	－
撮影モード	○	○		－	－
明るさ（EV補正）	○	－	○	－	○
ISO	－	－		－	－
色合い（ホワイトバランス）	－	○	ISO	－	AUTO
水中ホワイトバランス	－	－		－	
フォーカス	－	－	－	－	AUTO
測光モード	－	－	－	－	○
おまかせシーン認識	○	－	－	－	－
スマイル検出感度	○	○	ISO	－	－
顔検出	○	○	ISO	－	－
フラッシュレベル	－	○	－	－	－
目つぶり軽減	－	－		－	－
赤目軽減	○	○		－	－
DRO	－	○	－	－	－
カラーモード	－	○	－	－	○
手ブレ補正	－	○	ISO	－	○
撮影設定	○	○	○	－	○

ご注意

- 本機の画面には、それぞれのモードで設定できる項目のみが表示されます。

MENU一覧(再生)

再生中に見えている画面に対して使える機能を表示して、手軽に設定できます。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする

2 MENUをタッチしてメニュー画面を表示する

3 メニュー項目 → 希望の項目 → OKの順にタッチする

希望の項目がすでに選択されている場合は、✕が表示されます。

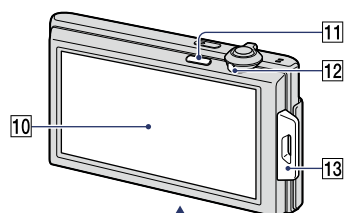
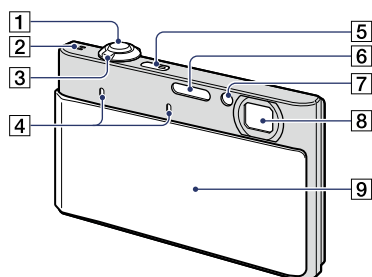
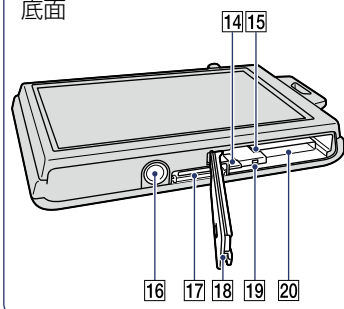
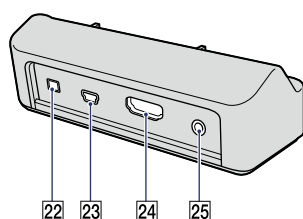
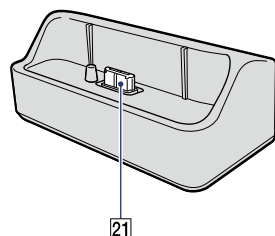
下の表では、○は設定可能、－は設定不可能を表しています。
「メニュー項目」の各項目をクリックすると、該当ページに移動します。

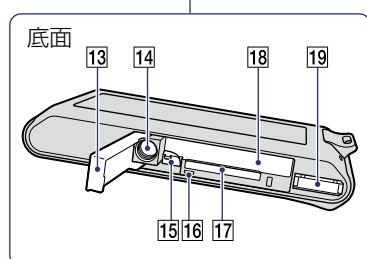
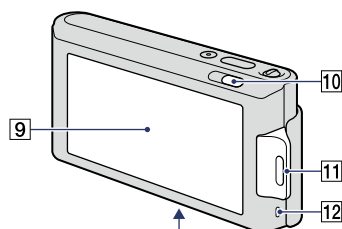
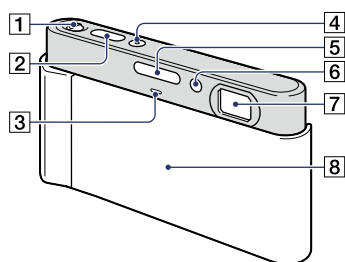
再生モード／メニュー項目	"メモリースティック デュオ"				内蔵メモリー
	日付ビュー	イベントビュー	お気に入り	フォルダビュー	フォルダビュー
(日付リスト)	○	－	－	－	－
(イベントリスト)	－	○	－	－	－
(再生フォルダ選択)	－	－	－	○	－
(ビューモード)	○	○	○	○	－
(画像絞込み)	○	○	○	－	－
(スライドショー)	○	○	○	○	○
(お気に入り登録/解除)	○	○	○	－	－
(加工)	○	○	○	○	○
(ペイント)	○	○	○	○	○
(マルチリサイズ)	○	○	○	○	○
(削除)	○	○	－	○	○
(プロテクト)	○	○	○	○	○
DPOF	○	○	○	○	－
(印刷)	○	○	○	○	○
(回転)	○	○	○	○	○
(音量設定)	○	○	○	○	○

ご注意

- 本機の画面には、それぞれのモードで設定できる項目のみが表示されます。

各部の名前を確認する(DSC-T900)

カメラ

マルチ出力スタンド

1 シャッターボタン
2 スピーカー
3 ズーム(W/T)レバー (30、41)
4 マイク
5 ON/OFF (電源)ボタン
6 フラッシュ
7 セルフタイマーランプ/スマイルシャッターランプ/AFイルミネーター
8 レンズ
9 レンズカバー
10 液晶画面/ タッチパネル
11 ▶(再生)ボタン(40)
12 モードスイッチ
13 リストストラップ取り付け部/グリップ
14 取りはずしつまみ
15 バッテリー挿入口
16 三脚用ネジ穴
17 マルチ端子
18 バッテリー/ "メモリースティック デュオ"カバー
19 アクセスランプ
20 "メモリースティック デュオ"挿入口
21 カメラ接続端子
22 DC IN端子
23 USB端子
24 HDMI端子
25 A/V OUT (STEREO)端子

各部の名前を確認する（DSC-T90）

1 ズーム（W/T）レバー（30、41）
2 シャッターボタン
3 マイク
4 ON/OFF（電源）ボタン
5 フラッシュ
6 セルフタイマーランプ/スマイルシャッターランプ/AFイルミネーター
7 レンズ
8 レンズカバー
9 液晶画面/ タッチパネル
10 ▶（再生）ボタン（40）
11 リストストラップ取り付け部/グリップ
12 スピーカー
13 バッテリー / "メモリースティック デュオ"カバー
14 三脚用ネジ穴
15 取りはずしつまみ
16 アクセスランプ
17 "メモリースティック デュオ"挿入口
18 バッテリー挿入口
19 マルチ端子

タッチパネルを使いこなす

このカメラは画面上に出ているボタンをタッチすることにより各機能を設定します。

OK	次の画面にすすむ。
BACK	1つ前の画面に戻る。
✕	撮影/再生モードに戻る。
OFF	再生モードの画面表示を[画像のみ]にする。
▲/▼/◀/▶	隠れている項目を表示させて、設定したい項目を表示する。

ご注意

- タッチパネルを操作するときは、指または付属のペイントペンで軽く押してください。必要以上に強く押したり、付属のペイントペン以外の先の尖ったもので押すと故障の原因になります。
- 撮影時、画面右上をタッチしていると、ボタンやアイコンが一時的に消えます。指が離れると再び表示されます。

画面をタッチしてピントを合わせる

タッチパネル上の被写体をタッチすると枠が表示され、シャッターを半押ししたときに枠内にピントが合います。枠内に顔がある場合は、ピント以外に明るさ、色合いも自動で最適化されます。

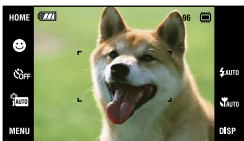
[顔]	タッチした場所に顔が検出されたとき表示される。
[指]	タッチした場所が顔以外のとき表示される。
OFF	ピント合わせを解除する。

ご注意

- デジタルズーム時、(拡大鏡入)モード時、EASY(かんたん撮影)時はこの機能は使えません。
- シーンセレクションの (風景)、(夜景)、(料理)、(打ち上げ花火)、(水中)が選ばれているときは、この機能は使えません。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

DISP(画面表示)を切り換える

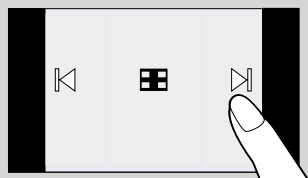
DISPをタッチして画面表示を切り換えることができます。

ご注意

- 撮影時と再生時は、[明るさ]以外は個別に設定が必要です。

表示設定

画面に操作ボタンやアイコンを表示するかどうか設定します。

✓	(ノーマル)	操作ボタンとアイコンを表示する。
	(シンプル)	操作ボタンのみ表示する。
	(画像のみ)	操作ボタンとアイコンを表示しない。

再生時の[画像のみ]を使いこなすには

- 液晶画面の左右をタッチして画像を選びます。画面中央をタッチすると、一時的に[ノーマル]になり、画面右上のOFFで[画像のみ]に戻ります。
- [ノーマル]、[シンプル]時、OFFをタッチすると[画像のみ]になります。画面中央をタッチすると、元の画面表示設定に戻ります。

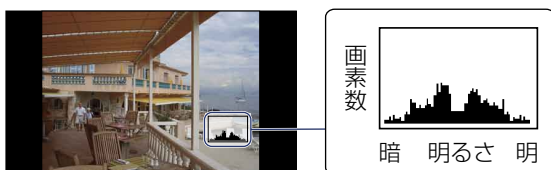
ワイドズーム

1枚再生時、4:3または3:2の画角の静止画を16:9の画角で再生します。上下部分を少し切って表示します。

ご注意

- 動画、16:9の画像はワイドズームできません。

ヒストグラム

ヒストグラムは、明るさを示すグラフです。表示が右寄りなら明るめの画像、左寄りなら暗めの画像です。

ご注意

- 静止画1枚再生時にもヒストグラムが表示されますが、明るさ(EV)の補正はできません。
- 動画撮影時、動画再生時、縦に表示された画像、回転した画像、一時回転表示した画像、ワイドズーム(4:3、3:2)した画像では、ヒストグラムは表示されません。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のとき大きく異なります。
  – フラッシュ発光したとき
  – シャッタースピードが遅い、速いとき
- 他機で撮影した画像はヒストグラムが表示されないことがあります。

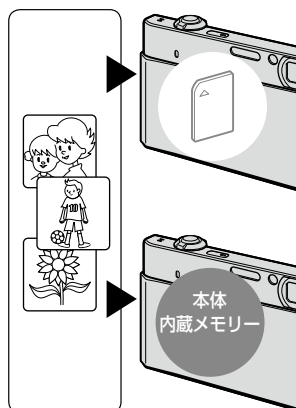
明るさ

液晶画面の明るさを設定します。明るい屋外では、[明るさ]を[明]にすると見やすくなります。ただし、バッテリーの消費は早くなります。

表示枚数設定

一覧表示時、画像を表示する枚数を設定します。12枚か20枚で表示します。

内蔵メモリーについて

本機には、取りはずすことのできない内蔵メモリー（約11 MB）が搭載されています。本機に"メモリースティック デュオ"が入っていないときでも、画像を内蔵メモリーに記録できます。

"メモリースティック デュオ"が挿入されているとき

[撮影画像]：“メモリースティック デュオ”に記録します。

[再生]：“メモリースティック デュオ”内の画像を再生します。

[メニュー /設定などの機能]：“メモリースティック デュオ”内のデータに対して行います。

"メモリースティック デュオ"が挿入されていないとき

[撮影画像]：内蔵メモリーに記録します。

[再生]：内蔵メモリーの画像を再生します。

[メニュー /設定などの機能]：内蔵メモリー内のデータに対して行います。

内蔵メモリーに記録した画像データについて

必ず、以下のいずれかの方法でバックアップを取ることをおすすめします。

パソコンのハードディスクにバックアップを取るには

本機に"メモリースティック デュオ"を入れない状態で、136 ～ 138ページの操作を行う。

"メモリースティック デュオ"にバックアップを取るには

充分な空き容量のある"メモリースティック デュオ"を準備して、[コピー]（60ページ）の操作を行う。

ご注意

- "メモリースティック デュオ"に記録された画像データは、内蔵メモリーに取り込めません。
- 本機とパソコンをUSB接続して、内蔵メモリーのデータをパソコンに取り込めますが、パソコン内のデータを内蔵メモリーに書き出せません。

カスタマー登録について

カスタマー登録していただくと、安心・便利な各種サポートが受けられます。
詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」またはWEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-usbregi/

登録後はカスタマー登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/contact/

カスタマー登録の特典については下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-tokuten/

カスタマー登録に関するお問い合わせ

カスタマー専用デスク

電話：**0466-38-1410**
受付時間：月～金　9:00 ～ 20:00
　　　　　土日祝　9:00 ～ 17:00

カスタマー登録およびそれに関する電話によるお問い合わせの対応は、国内のみです。

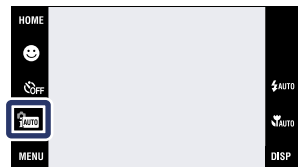
おまかせオート撮影

自動設定で撮影します。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを（静止画）にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 （撮影モード） → （おまかせオート撮影） → ✕ または OK

ご注意

- フラッシュは（オート）または（発光禁止）になります。

おまかせシーン認識について

おまかせオート撮影では、おまかせシーン認識が働きます。これは本機が自動的に撮影状況を認識して、撮影する機能です。

シーン認識マーク

- （夜景）、（夜景＆人物）、（三脚夜景）、（逆光）、（逆光＆人物）、（風景）、（マクロ）、（人物）を認識し、認識した場合は画面にマークがでます。
  詳しくは93ページをご覧ください。

静止画のピントがうまく合わないときは

- ピントが合う最短距離は、レンズ先端からW側約8 cm、T側約50 cmです。それよりも近くで撮影するときは、拡大鏡撮影してください。
- 自動でピントを合わせられない場合は、AE/AFロック表示の点滅が遅い点滅に変わり、「ピピッ」と音がしません。構図を変えたり、フォーカス設定を変える（34ページ）などしてください。
- 以下のとき、ピントが合いにくい場合があります。
  - –被写体が遠くて暗い
  - –被写体と背景のコントラストが弱い
  - –ガラス越しの被写体
  - –高速で移動する被写体
  - –鏡や発光物など反射、光沢のある被写体
  - –点滅する被写体
  - –逆光になっている被写体

シーンセレクション

あらかじめ、撮影状況に合わせて用意された設定で撮影できます。

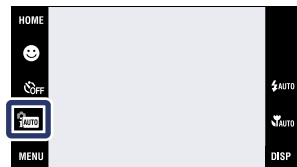
DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを(静止画)にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 (撮影モード) → 好みのモード → OK

または

(撮影モード) → SCN(シーンセレクション)

→ 好みのモード → OK

ISO(高感度)	暗いところでも、フラッシュを使わずにブレを軽減しながら撮影する。
(ソフトスナップ)	人物や花などを、やさしい雰囲気で撮影する。
(風景)	遠景にピントを合わせ、青空や草木の色を鮮やかに撮影する。
(夜景&人物)	夜景と手前の人物を同時に撮影するときに使う。夜景の雰囲気を損なわずに、手前の人物を際立たせた画像を撮影する。
(夜景)	暗い雰囲気を損なわずに、遠くの夜景を撮影する。
(料理)	マクロモードになり、料理を明るく美味しそうに撮影する。
(ビーチ)	海や湖畔などの場所で撮影するとき、水の青さを鮮やかに撮影する。
(スノー)	雪景色などの画面全体が白くなるような場所で撮影する場合、画面が沈みがちになるのを防ぎ、明るくなるようにする。

次のページにつづく↓

(打ち上げ花火)	打ち上げ花火をきれいに撮影する。
(水中)	ハウジング(マリンパックなど)を装着したとき、水中をきれいに撮影する。
(高速シャッター)	屋外などの明るい場所で動きのある被写体を撮影する。 • シャッタースピードが速くなるので、暗い場所で撮影すると画像が暗くなります。

ご注意

- (夜景&人物)、(夜景)、(打ち上げ花火)のときは、シャッタースピードが遅くなり画像がブレやすくなるため、三脚のご使用をおすすめします。

シーンセレクションで使用できる機能

シーンセレクションでは、シーンに合わせて最適な撮影ができるよう、機能設定の組み合わせがあらかじめ決まっています。○は設定可能、－は設定不可能を表しています。「フラッシュモード」の下のアイコンは、設定できるモードを表しています。
モードによっては使えない機能があります。

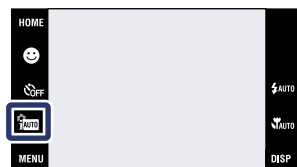
	マクロ入/拡大鏡モード	フラッシュモード	顔検出/スマイルシャッター	連写/ブラケット	色合い（ホワイトバランス）	赤目軽減	目つぶり軽減	手ブレ補正
ISO	○/－		○	－	○*1	－	－	○
	○/－	○	○*2	○	－	○	○	○
	－/－		－	○	－	○	－	○
	○/－	SL	○	－	－	○	－	○
	－/－		－	－	－	－	－	○
	○/○		－	－	○	－	－	－
	○/－		○	○	－	○	－	○
	○/－		○	○	－	○	－	○
	－/－		－	－	－	－	－	○
	○/○		－	○	○*3	－	－	○
	○/－		○	○	－	○	－	○

*1 ［色合い（ホワイトバランス）］の［フラッシュ］は選べません。
*2 ［顔検出］の［タッチ時］は選べません。
*3 ［水中ホワイトバランス］になります。

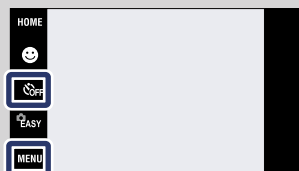
かんたん撮影

必要最低限の機能を使って静止画を撮影します。
変更できる機能は、画像サイズ、フラッシュ、セルフタイマーです。
文字が大きくなり、表示が見やすくなります。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを📷(静止画)にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 iAUTO(撮影モード)→EASY(かんたん撮影)→OK

ご注意

- 液晶画面の明るさが自動的に明るくなるため、バッテリーの消費が早くなります。

画像サイズ、フラッシュ、セルフタイマーを変更する

画像サイズ： MENU→[画像サイズ]→[大]または[小]→OK
フラッシュ： MENU→[フラッシュ]→[オート]または[切]→OK
セルフタイマー： OFF(セルフタイマー)→OFF(セルフタイマー切)またはON(セルフタイマー10秒)→OK

おまかせシーン認識について

かんたん撮影では、おまかせシーン認識が働きます。これは本機が自動的に撮影状況を認識して、撮影する機能です。

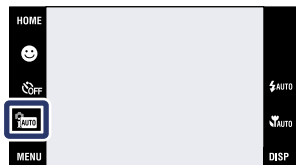
- (夜景)、(夜景＆人物)、(三脚夜景)、(逆光)、(逆光＆人物)、(風景)、(マクロ)、(人物)を認識し、認識した場合は画面にマークがでます。
詳しくは93ページをご覧ください。

プログラムオート撮影

露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定します。画面下部に、フォーカス、測光モード、ISO、明るさ（EV補正）のボタンが出ます。また、メニューで多彩な機能を設定できます。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを（静止画）にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 iAUTO（撮影モード）→ PGM（プログラムオート撮影）→ OK

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

動画撮影

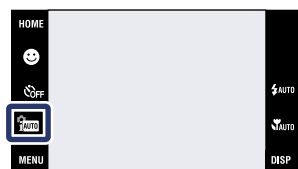
音声付きで動画を撮影できます。

DSC-T900：

1 モードスイッチを(動画)にする
2 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
3 シャッターボタンを深押しする
4 終了するときは、もう一度シャッターボタンを深押しする

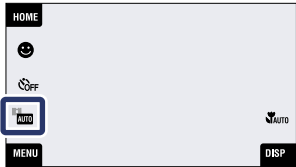
DSC-T90：

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 AUTO(撮影モード) → (動画撮影) → OK
3 シャッターボタンを深押しする
4 終了するときは、もう一度シャッターボタンを深押しする

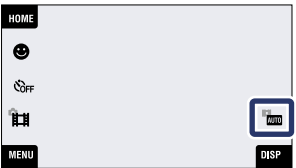
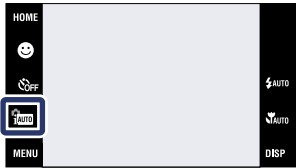
目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

動画撮影モード

動画撮影時、撮影状況に合わせて用意された設定で撮影できます。

DSC-T900：

1 モードスイッチを（動画）にする
2 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
3 （動画撮影モード）→ 好みのモード → OK

DSC-T90：

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 （撮影モード）→（動画撮影）→ OK

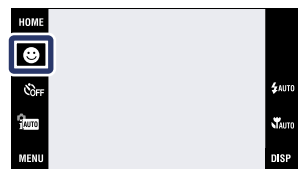
3 （動画撮影モード）→ 好みのモード → OK

✓	（オート）	カメラが自動調整する。
	（高感度）	薄暗いところでも、高感度で動画を撮影できる。
	（水中）	ハウジング（マリンパックなど）を装着したとき、水中をきれいに撮影できる。

スマイルシャッター

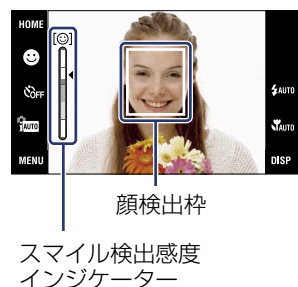
笑顔を検出すると自動で撮影します。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを（静止画）にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 ☻（スマイルマーク）をタッチする

3 笑顔を待つ

スマイルレベルがインジケーターの◀を越えると、自動で撮影される。
スマイルシャッター中に、シャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。

4 終了するときは、もう一度☻（スマイルマーク）をタッチする

ご注意

- “メモリースティック デュオ”/内蔵メモリーがいっぱいになると自動的に終了します。
- 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。
- デジタルズームは使えません。
- シーンセレクションが（風景）、（夜景）、（料理）、（花火）、（水中）のときは、スマイルシャッターは使えません。

検出されやすい笑顔のポイント

① 前髪が目にかからないようにする。
帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。

② カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。目は細めにする。

③ 口を開けてしっかり笑う。歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。

- 顔検出されているうちの1人が笑えばシャッターが切れます。
- 顔検出で笑顔を検出する被写体を優先的に設定できます（96ページ）。
- 笑顔が検出されない場合はMENUの[スマイル検出感度]を設定してください。

ズーム

画像を拡大して撮影します。光学4倍までズームします。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 ズーム（W/T）レバーを動かす

ズーム（W/T）レバーをT側に動かすとズームし、W側に動かすと戻る。

- 4倍以上のズームを行う場合は、76ページをご覧ください。

T側

W側

ご注意

- 動画撮影中はズーム速度が遅くなります。

セルフタイマー

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 ⏲OFF（セルフタイマー） → 好みのモード → OK

✓	⏲OFF（セルフタイマー切）	セルフタイマーを使わない。
	⏲10（セルフタイマー 10秒）	セルフタイマーを10秒後に設定する。 シャッターボタンを押すと、セルフタイマーランプが点滅して「ピッピッピッ」と操作音が鳴り、撮影が開始される。 解除するには、もう一度⏲10をタッチする。
	⏲2（セルフタイマー 2秒）	セルフタイマーを2秒後に設定する。

ご注意

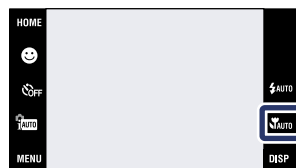
- EASY（かんたん撮影）の時は、⏲ON（セルフタイマー 10秒）と⏲OFF（セルフタイマー切）のみ選べます。

2秒のセルフタイマーを使って、手ブレを軽減する

- セルフタイマーを2秒後に設定して撮影すると、シャッターボタンを押したときのブレを防ぐことができるため、手ブレが起こりにくくなります。

マクロ/拡大鏡

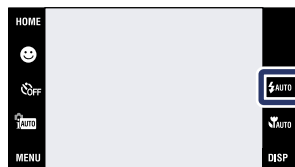
虫や花など、小さいものを近くできれいに撮影したいときに使います。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 (マクロ) → 好みのモード → OK

✓	(オート)	遠景から近接まで自動でピントを合わせる。 • 通常はこのモードにします。
	(マクロ入)	近接する被写体を優先してピントを合わせる。近くのものを撮影する場合に使用する。 • ズームをW側いっぱいにしてから撮影することをおすすめします。
	(拡大鏡入)	マクロ撮影よりも、さらに近距離で撮影したい場合に使用する。W側固定で約1 ～ 20 cmの間でピントを合わせる。

ご注意

- マクロ撮影、拡大鏡撮影時は通常よりもピント合わせが遅くなります。
- おまかせオート撮影時、(マクロ入)は選べません。
- 動画撮影時、スマイルシャッター中は、マクロは(オート)に固定されます。
- 拡大鏡撮影時は以下の点にご注意ください。
  – おまかせシーン認識、顔検出機能は使えません。
  – 拡大鏡モードは、電源を切ったり撮影モードを切り換えたりすると解除されます。
  – フラッシュは(強制発光)、または(発光禁止)のみになります。

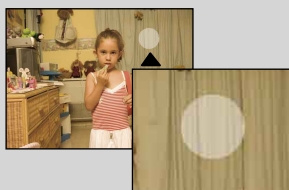
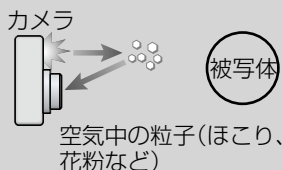
フラッシュ

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 ⚡AUTO（フラッシュ） → 好みのモード → OK

✓	⚡AUTO（オート）	光量不足または逆光と判別したとき発光する。
	⚡（強制発光）	フラッシュを必ず発光する。
	⚡SL（スローシンクロ（強制発光））	フラッシュを必ず発光する。 暗い場所ではシャッタースピードを遅くし、フラッシュが届かない背景も明るく撮影する。
	⊛（発光禁止）	フラッシュを発光しない。

ご注意

- フラッシュは2回発光し、1回目で発光量を調整します。
- フラッシュを充電している間、⚡● が表示されます。
- 連写、ブラケット時はフラッシュ撮影できません。
- おまかせオート撮影のとき、⚡（強制発光）、⚡SL（スローシンクロ（強制発光））は使えません。

フラッシュ撮影で白く丸い点が写るときは

カメラの近くに浮かんでいるほこりや花粉などがフラッシュに反射して、白く丸い点のように撮影されてしまうことがあります。

軽減するには：

- 撮影環境を明るくし、フラッシュなしで撮影する。
- ISO（高感度）に設定して撮影する。（フラッシュは⊛（発光禁止）になります）
- ISO（高感度）に設定しても、暗い場所ではシャッタースピードが遅くなることがあります。三脚を使用するか、脇をしめ、シャッターボタンを押したあとでもしっかりとカメラを固定してください。

フォーカス

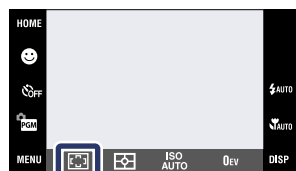
ピント合わせの方法を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。
AFとは「Auto Focus」の略で、自動ピント合わせ機能のことです。

PGM(プログラムオート撮影)時の設定方法です。動画時のフォーカスについては、91ページをご覧ください。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを(静止画)にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 iAUTO(撮影モード) → PGM(プログラムオート撮影) → OK

3 (フォーカス)→ 好みのモード → OK

✓	(マルチAF)	画面全体を基準に、自動ピント合わせをする。 静止画撮影で半押しした時には、ピントが合ったエリアに緑色の枠が表示される。 • 顔検出が働いている場合には、顔を優先したAFになります。 • シーンセレクションが(水中)のときは、水中撮影に適したAFになります。半押ししてピントが合うと、大きな枠が緑色で表示されます。	AF測距枠(静止画のみ)
	(中央重点AF)	画面中央付近の被写体に自動ピント合わせする。AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能。	AF測距枠
	(スポットAF)	非常に小さな被写体に自動ピント合わせする。AFロックと併用して好きな構図で撮影が可能。測距枠からはずれないように手ブレにご注意ください。	AF測距枠

次のページにつづく↓

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

	0.5m/1.0m/3.0m/7.0m/∞（無限遠）	あらかじめ設定した距離の周辺に、すばやく自動でピント合わせする（セミマニュアル）。同じ距離にある被写体を繰り返し撮影するような場合や、網やガラス越しの撮影など、オートフォーカスが効きにくいときに便利。 • セミマニュアルの場合、画面全体を基準にピント合わせします。

ご注意

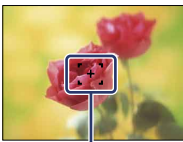
- デジタルズーム時や、[AFイルミネーター]を使用するときは、 AF測距枠設定が無効になり、 AF測距枠が点線で表示されます。この場合、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- [マルチAF]以外に設定しているとき、顔検出は[タッチ時]に固定されます。
- スマイルシャッター中は、[マルチAF]に固定されます。
- セミマニュアルの距離設定は多少の誤差を含みます。

素早くピントを合わせるには

画面をタッチすると枠が表示され、シャッターを半押ししたときに枠内にピントが合います。

測光モード

本機が自動で露出を決めるとき、画面のどの部分で光を測るか（測光）を設定します。

PGM（プログラムオート撮影）時の設定方法です。動画時の測光モードについては、92ページをご覧ください。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを（静止画）にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 iAUTO（撮影モード）→ PGM（プログラムオート撮影）→ OK

3 （測光モード）→ 好みのモード → OK

✓	（マルチ）	画面を多分割して測光し、全体のバランスをとって自動調節する（マルチパターン測光）。
	（中央重点）	画面の中央部に重点をおいて測光し、中央部付近の明るさを基準に露出を決める（中央重点測光）。
	（スポット）	被写体の一部分だけで測光する（スポット測光）。逆光にある被写体や、背景と被写体のコントラストが強いときに便利。 スポット測光照準 被写体をここに合わせる

ご注意

- 画面をタッチしてピント合わせをしたときは、[マルチ]に固定されます。
- [マルチ]以外に設定しているとき、顔検出は[タッチ時]に固定されます。
- スマイルシャッター中は、[マルチ]に固定されます。

ISO

明るさの感度を設定します。

(プログラムオート撮影)時の設定方法です。シーンセレクションの(水中)モード時のISOについては、87ページをご覧ください。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを(静止画)にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 (撮影モード) → PGM(プログラムオート撮影) → OK

3 ISO AUTO(ISO) → 好みの数値 → OK

✓	ISO AUTO(オート)	カメラが自動で設定する。
	ISO 80/ISO 100/ISO 200/ISO 400/ISO 800/ISO 1600/ISO 3200	暗い場所や動いている被写体を撮影する場合、ISO感度を上げる(数値を大きくする)と、ブレを軽減できる。

ご注意

- 連写、ブラケット時、DROが[プラス]のときは[ISO AUTO]、[ISO 80] ～ [ISO 800]までしか選べません。

ISO感度(推奨露光指数)の調整

ISO感度とは、光を受け取る撮像素子を含めた記録側の感度値です。同じ露出で撮影しても、設定によって仕上がる画像が変わります。

ISO感度が高い

シャッタースピードを速くしてブレを軽減し、露出が足りない場所でも、明るめに記録できます。
ただし、画像にノイズが増えます。

ISO感度が低い

ノイズの少ない画像を撮影することができます。
ただし露出が足りない場合は、画像は暗めに記録されることがあります。

明るさ（EV補正）

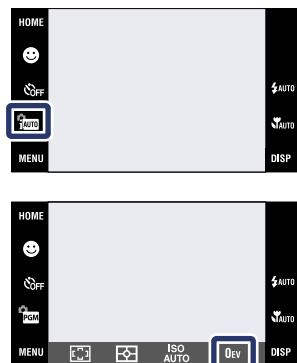
－2.0EVから＋2.0EVの範囲で、1/3EV単位で露出を手動調節できます。

PGM（プログラムオート撮影）時の設定方法です。それ以外の撮影モード時については、86ページをご覧ください。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを（静止画）にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 iAUTO（撮影モード）→ PGM（プログラムオート撮影）→ OK

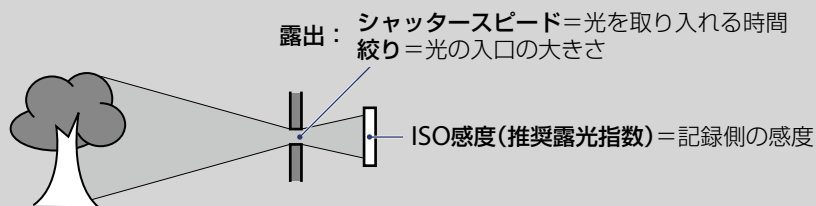
3 0EV（明るさ（EV補正））→ 好みの数値 → OK

ご注意

- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュ撮影時は、補正が効かないことがあります。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

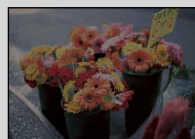
次のページにつづく↓

光の量を調整して好みの画像を撮る

露出と記録感度を調整することで、さまざまな仕上がりにすることができます。
露出とはシャッターを切ったときに取り入れる光の量のことです。

露出オーバー＝光が多すぎる
画面が白くなる

明るさ（EV補正）を－側にする

露出が適正

明るさ（EV補正）を＋側にする

露出アンダー＝光が少なすぎる
画面が暗くなる

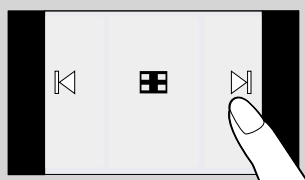
静止画再生

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする

2 ▶I/I◀で画像を選ぶ

ご注意

- 他機で撮影した画像は再生できない場合があります。HOME → ▶（画像再生） → ［フォルダビュー］を選んで再生してください。

DISP（画面表示）の［画像のみ］を使いこなすには

- 液晶画面の左右をタッチして画像を選びます。画面中央をタッチすると、一時的に［ノーマル］になり、画面右上のOFFで［画像のみ］に戻ります。
- ［ノーマル］、［シンプル］時、OFF をタッチすると［画像のみ］になります。画面中央をタッチすると、元の画面表示設定に戻ります。
- 再生ズームするときは、画面の中央をタッチしてボタンやアイコンを一時的に表示させてから、上の手順に従って、拡大したい部分をタッチしてください。

他機で撮った画像を見るときは

本機で撮った画像と、他機で撮った画像の両方が入っている"メモリースティック デュオ"を本機に入れると、再生方法を選ぶ画面が表示されます。

「管理された画像のみ再生」「フォルダビューで全て再生」

「管理された画像のみ再生」を選ぶと、設定しているビューモードで再生します。この場合、本機で撮影した画像以外は再生されない場合があります。

「フォルダビューで全て再生」を選ぶと、フォルダビューに切り替わってすべての画像を再生します。

再生ズーム

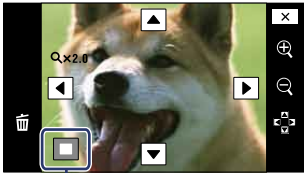
再生した画像を拡大します。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする

2 拡大したい部分をタッチする

タッチした部分を中心に、2倍に拡大される。ズーム(W/T)レバーをT側に動かしても、拡大される。

3 倍率や拡大位置を調整する

画面をタッチするたびに、さらに拡大表示される。

全体の中で現在表示されている部分

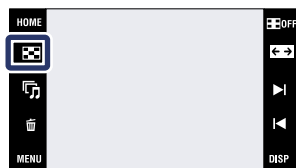
ボタン	できること
▲/▼/◀/▶	ズーム位置変更
⊕/⊖	倍率変更
✥	▲/▼/◀/▶を表示/非表示
✕	ズーム中止

画像を拡大し保存するには

• MENU → [加工] → [トリミング]で、拡大した画像を保存できます。

一覧表示

同時に複数の画像を表示させます。一覧表示画面のサムネイル画像をタッチすると1枚再生画面に戻ります。

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする
2 ⊞（一覧表示）→ ⏶/⏷でページをめくる

表示方法を変える

"メモリースティック デュオ"使用時、（ビューモード）をタッチすると、画像再生の方法（ビューモード）を変更できます。

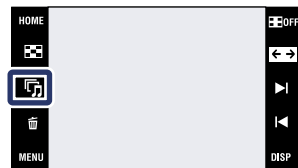
ビューモード

（日付ビュー）→ 50ページ
（イベントビュー）→ 51ページ
♡（お気に入り）→ 52ページ
（フォルダビュー）→ 53ページ

- 一覧表示画面で DISP をタッチすると、12枚と20枚で表示枚数を設定することができます。

スライドショー

効果や音楽とともに、画像を自動的に連続再生します。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 (スライドショー) → 好みのモード → OK → [実行]
3 終了するときは、画面をタッチして[終了]をタッチする

ご注意

- 動画は再生できません。
- [再生画像]以外の設定は次回変更するまで保持されます。

再生画像

再生する画像のグループを設定します。

✓	**全て**	全ての静止画を順番に再生する。
	この日付	ビューモードが(日付ビュー)のとき、選択中の日付内の静止画を再生する。
	このイベント	ビューモードが(イベントビュー)のとき、選択中のイベント内の静止画を再生する。
	お気に入り1～6	ビューモードが♡(お気に入り)のとき、選択している番号内の静止画を再生する。
	フォルダ内	ビューモードが(フォルダビュー)のとき、選択中のフォルダ内の静止画を再生する。

ご注意

- 内蔵メモリー使用時は[フォルダ内]に固定されます。

エフェクト

スライドショーの再生テンポや雰囲気を設定します。

✓	**シンプル**	静止画を一定間隔で送るシンプルなスライドショー。[間隔設定]で再生間隔が変更でき、画像そのものをじっくりと楽しむことができる。
	ノスタルジック	映画の1シーンのようなムードあるスライドショー。
	スタイリッシュ	ミドルテンポのスタイリッシュなスライドショー。
	アクティブ	アクティブなシーンに合ったハイテンポなスライドショー。

BGM

スライドショーとともに再生する音楽を設定します。複数のBGMを選ぶことが可能です。BGMの音量を調節するには、画面をタッチして🔉-/🔊+で調整します。

	消音	BGMはつけない。
✓	Music1	[エフェクト]が[シンプル]のときの初期設定。
	Music2	[エフェクト]が[ノスタルジック]のときの初期設定。
	Music3	[エフェクト]が[スタイリッシュ]のときの初期設定。
	Music4	[エフェクト]が[アクティブ]のときの初期設定。

間隔設定

画面が切り替わる間隔を設定します。[エフェクト]が[シンプル]のとき以外は[オート]に固定されます。

	1秒	[エフェクト]が[シンプル]のときのみ。
✓	**3秒**	
	5秒	
	10秒	
	オート	選択している[エフェクト]に適した間隔になる。

リピート

スライドショーを繰り返し行うかどうかを設定します。

✓	**入**	繰り返しスライドショーする。
	切	1回スライドショーする。

好きな曲をBGMにする♪

お手持ちの音楽CDやMP3ファイルからお好みの曲（BGMファイル）を本機に転送し、スライドショーとともに再生できます。BGMファイルを転送するには、付属のソフトウェア「Music Transfer」をパソコンにインストールして行います。詳しくは、140、143ページをご覧ください。

- 本機には4曲までBGMを記録できます。（出荷時には、4曲分（Music1 ～ 4）すべてのBGMが用意されていますが、お好みの曲と入れ換えることができます。）
- 本機で再生できる曲の長さは、1曲最長5分までです。
- BGMファイルが破損するなどして再生ができない場合は、[BGMフォーマット]（55ページ）を行って、あらためてBGMファイルを本機に転送し直してください。

削除

不要な画像を選んで削除できます。
MENUからも削除できます（117ページ）。

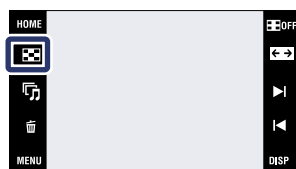
ご注意

- 内蔵メモリー使用時はフォルダビューで表示されます。
- ビューモードが[お気に入り]のとき、削除はできません。

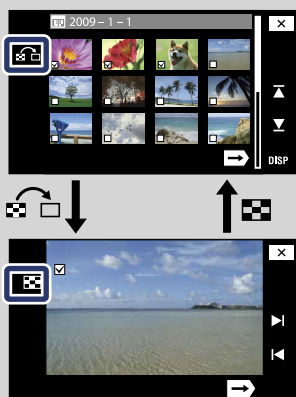
1枚再生中に削除する

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする
2 削除したい画像を表示 → 🗑（削除） → [実行]

一覧表示中に削除する

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする
2 ▦（一覧表示）をタッチして、一覧表示にする

3 🗑（削除） → 削除したい画像をタッチ → ➡ → [実行]

- ✓マークが付いた画像をもう一度タッチすると✓マークは消えます。

一覧表示、1枚再生を切り換えながら選べます

一覧表示時に▦↷□をタッチすると1枚表示に、1枚表示時に▦をタッチすると一覧表示になります。

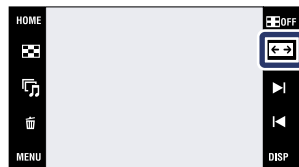
- お気に入り登録/解除、プロテクト、DPOFのときも切り換えられます。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

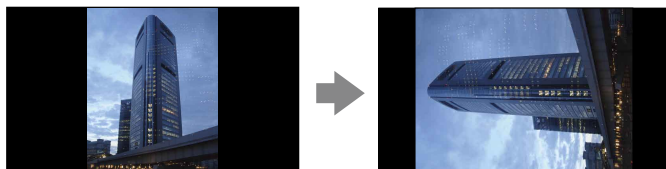
ワイドズーム

1枚再生時、4:3または3:2の画角の静止画を16:9の画角で再生します。上下部分を少し切って表示します。

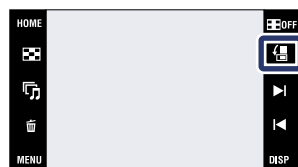
1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 ⇔ (ワイドズーム)をタッチする
3 終了するには、再び ⇔ (ワイドズーム)をタッチする

ご注意

- 動画、16:9の画像はワイドズームできません。

一時回転表示

1枚再生時、縦に表示された画像を一時的に横に回転して大きく表示します。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする

2 縦に表示された画像を選ぶ → (一時回転表示)をタッチする

3 終了するには、再び (一時回転表示)をタッチする

ご注意

- 動画、横に表示された画像は一時回転表示できません。
- ▶I/I◀をタッチすると一時回転表示は解除されます。

動画再生

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする

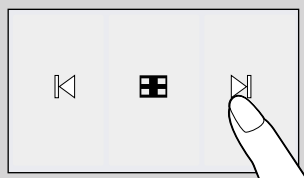
2 ▶I/I◀で動画を選ぶ

3 ▶(再生)をタッチする

ボタン	再生中にできること
VOL	音量調整
▶	通常再生
■	再生中止
▶▶/◀◀	早送り/早戻し

ご注意

- 他機で撮影した画像は再生できない場合があります。

DISP(画面表示)の[画像のみ]を使いこなすには

- 液晶画面の左右をタッチして画像を選びます。画面中央をタッチすると、一時的に[ノーマル]になり、画面右上のOFFで[画像のみ]に戻ります。
- [ノーマル]、[シンプル]時、OFF をタッチすると[画像のみ]になります。画面中央をタッチすると、元の画面表示設定に戻ります。

日付ビュー

画像を日付ごとに分けて表示します。
日付ごとに画像が区分けされるため、何日にどんな画像を撮ったのかを確認したいときに便利です。

1 HOME → ▶（画像再生）→［日付ビュー］→ OK

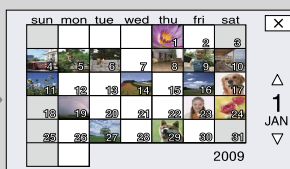
2 ⏶/⏷で表示したい日付を選ぶ

ご注意

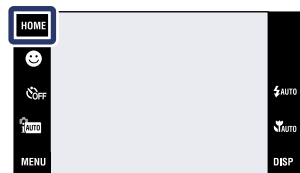
- 内蔵メモリー使用時は表示されません。
- 他機で撮影した画像を再生できない場合は、フォルダビューで再生してください。

カレンダー表示するには

一覧表示時、▦（日付リスト）をタッチして、カレンダー表示から再生したい日付を簡単に選ぶことができます。

日付リスト

イベントビュー

撮影日時や頻度を分析し、自動でグループ分けして表示します。

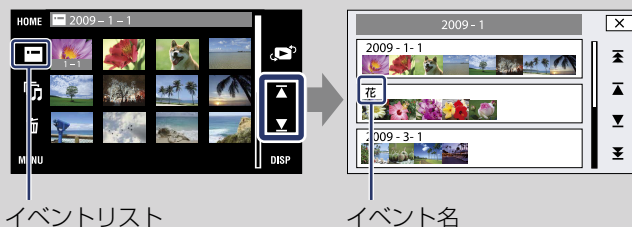
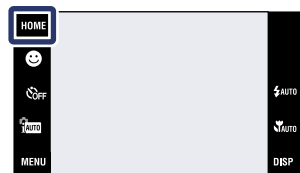
1 HOME → ▶（画像再生）→［イベントビュー］
→ OK

2 ⏶/⏷で表示したいイベントを選ぶ

ご注意

- 内蔵メモリー使用時は表示されません。
- 他機で撮影した画像を再生できない場合は、フォルダビューで再生してください。

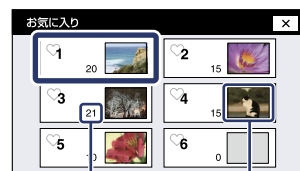
イベントリストを表示するには

一覧表示時、▭（イベントリスト）をタッチして、イベント一覧から再生したいイベントを簡単に選ぶことができます。
「PMB」（付属）を使うと、好きなイベント名を入れられます。イベント名の入れ方について詳しくは「PMBガイド」をご覧ください。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

お気に入り

お気に入り登録（111ページ）した画像を、お気に入りごとに表示します。

1 HOME → ▶（画像再生）→［お気に入り］
→ OK

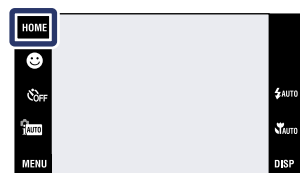
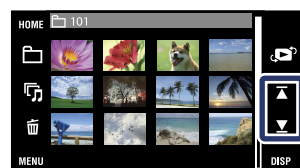
2 表示したいお気に入り番号をタッチする

ご注意

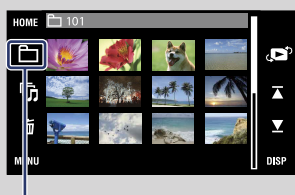
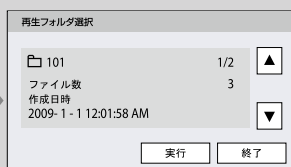
- 内蔵メモリー使用時は表示されません。
- 他機で撮影した画像を再生できない場合は、フォルダビューで再生してください。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

フォルダビュー

[メモリーツール]の[記録フォルダ作成]で作成したフォルダごとに表示します。

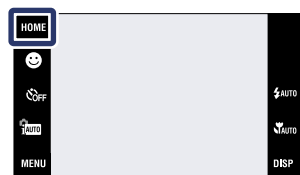
1 HOME → ▶（画像再生）→［フォルダビュー］
→ OK

2 ▲/▼で表示したいフォルダを選ぶ

再生フォルダを変更するには

一覧表示時、□(再生フォルダ選択)をタッチして、再生したいフォルダを簡単に選ぶことができます。

再生フォルダ選択

- フォルダが1つしかない場合は、記録フォルダを作成してください。
- 内蔵メモリー使用時は表示されません。

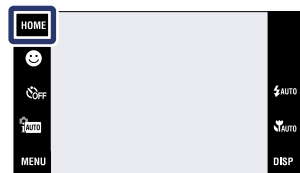
BGMダウンロード

CD-ROM（付属）に収録されている「Music Transfer」を使ってBGMの入れ換えをするときに使用します。

1 HOME → (スライドショー) → [BGMツール] → OK → [BGMダウンロード] → OK
「PCと接続してください」というメッセージが表示される
2 本機とパソコンをUSB接続し、「Music Transfer」を起動する
3 画面の操作手順に従って、BGMファイルの入れ換えを行う

HOME
OFF
AUTO
MENU
AUTO
AUTO
DISP

BGMフォーマット

本機に入っているBGMをすべて削除します。BGMファイルが破損して再生ができない場合などに使います。

1 HOME → (スライドショー) → [BGMツール] → OK → [BGMフォーマット] → OK → [実行]

出荷時に保存されていた曲を再び本機に戻すときは

CD-ROM(付属)に収録されている「Music Transfer」を使うと、出荷時の曲を再び本機に戻せます。

① 本機とパソコンをUSB接続する。

② 「Music Transfer」を起動して、すべて初期の曲に戻す。

• 「Music Transfer」の使いかたについて詳しくは、「Music Transfer」のヘルプをご覧ください。

フォーマット

“メモリースティック デュオ”または内蔵メモリーをフォーマット（初期化）します。市販の“メモリースティック デュオ”はフォーマット済みのため、フォーマットの必要はありません。

1 HOME → （メモリー管理）→［メモリーツール］→ OK →［フォーマット］→ OK →［実行］

ご注意

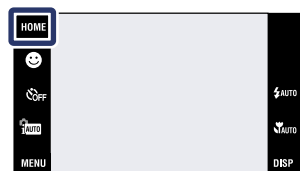
- フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

記録フォルダ作成

“メモリースティック デュオ”の中に新しいフォルダを作成します。
画像は、違うフォルダを選ぶか、更に新しいフォルダを作成するまでそのフォルダに記録されます。

1 HOME → （メモリー管理）→［メモリーツール］ → OK → ［記録フォルダ作成］ → OK → ［実行］

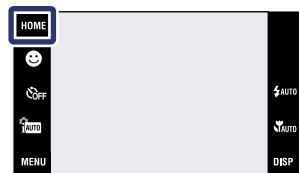
ご注意

- 内蔵メモリー使用時は表示されません。
- 他機で使用していた“メモリースティック デュオ”を本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダを作成する場合があります。
- 1つのフォルダに記録できる画像は最大4000枚です。フォルダ容量を超えると、自動的に新しいフォルダが作成されます。

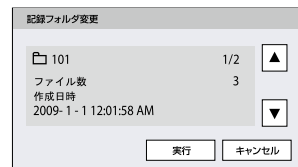
フォルダについて

- 新しいフォルダを作ると、記録先フォルダを変更したり（58ページ）、再生時のフォルダを選択（107ページ）できます。

記録フォルダ変更

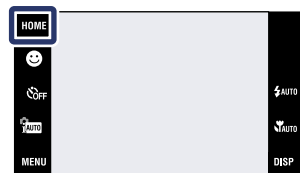
“メモリースティック デュオ”の中の、画像を記録するフォルダを変更します。

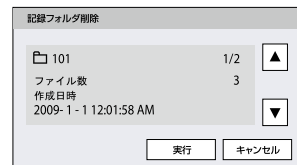
1 HOME → (メモリー管理) → [メモリーツール] → OK → [記録フォルダ変更] → OK

2 記録したいフォルダを選択 → [実行]

ご注意

- 内蔵メモリー使用時は表示されません。
- 以下のフォルダは記録フォルダとして選べません。
  – 「100」フォルダ
  – 「□□□MSDCF」と「□□□MNV01」のどちらか一つしかない番号のフォルダ
- 記録した画像は、別のフォルダには移動できません。

記録フォルダ削除

“メモリースティック デュオ”の中の、画像を記録するフォルダを削除します。

1 HOME → (メモリー管理) → [メモリーツール] → OK → [記録フォルダ削除] → OK

2 削除したいフォルダを選択 → [実行]

ご注意

- 内蔵メモリー使用時は表示されません。
- 記録フォルダとして設定しているフォルダを[記録フォルダ削除]で削除した場合、フォルダ番号が一番大きいフォルダが次の記録フォルダとして選ばれます。
- フォルダの中が空の場合のみ削除できます。画像や本機で再生できないファイルが入っている場合は、それらを削除してから行ってください。

コピー

内蔵メモリーに記録した画像を、"メモリースティック デュオ"に一括コピーします。

1 充分な空き容量のある"メモリースティック デュオ"を本機に入れる

2 HOME → （メモリー管理）→［メモリーツール］→ OK →［コピー］→ OK →［実行］

ご注意

- 充分に充電したバッテリーをご使用ください。残量の少ないバッテリーを使用して画像ファイルをコピーすると、バッテリー切れのためデータを転送できなかったり、データを破損するおそれがあります。
- 画像ごとのコピーはできません。
- データをコピーしても、内蔵メモリー内のデータは削除されません。内蔵メモリーの内容を消去するには、コピー後に"メモリースティック デュオ"を本体から取りはずし、［内蔵メモリーツール］の［フォーマット］を行ってください。
- データをコピーすると"メモリースティック デュオ"内に新しいフォルダが作成されます。コピー先のフォルダを指定することはできません。

ファイル番号

撮影画像のファイル番号の付けかたを設定します。

1 HOME → (メモリー管理) → [メモリーツール] → OK → [ファイル番号] → OK → 好みのモード → OK

✓	**連番**	記録フォルダを変更したり、"メモリースティック デュオ"を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。(取り換えた"メモリースティック デュオ"内に最新ファイルより大きな番号のファイルがある場合は、既存の最大番号+1のファイル番号を付ける。)
	リセット	フォルダごとにファイル番号を0001から付ける。(記録フォルダ内にファイルがある場合は、既存最大番号＋1のファイル番号を付ける。)

操作音

本機を操作したときに鳴るブザーの設定を変更したり、音を消したりします。

1 HOME → （設定） → ［本体設定］ → OK → ［操作音］ → OK → 好みのモード → OK

	シャッター	シャッターボタンを押したときのみ、シャッター音が鳴る。
✓	大	タッチパネルを操作したときや、シャッターボタンを押したときなどに、ブザー /シャッター音が鳴る。 音を小さくしたいときは[小]にする。
	小	
	切	音は鳴らない。

ご注意

- HDMIケーブル（別売）でテレビと接続中は、操作音は[シャッター]に固定されます。

機能ガイド

本機を操作したときに表示される機能説明の有無を設定できます。

1 HOME → 🧰（設定）→［本体設定］→ OK →［機能ガイド］→ OK → 好みのモード → OK

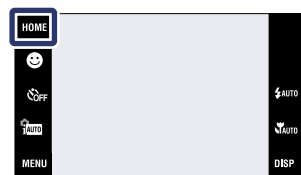
✓	入	機能ガイドを表示する。
	切	表示しない。

ご注意

• 再生時は、[切]にしても表示されます。

設定リセット

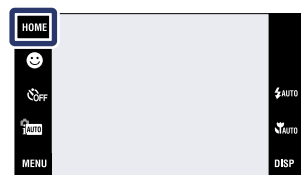
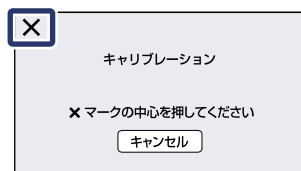
お買い上げ時の設定に戻します。
[設定リセット]を実行しても、画像は削除されません。

1 HOME → (設定) → [本体設定] → OK
→ [設定リセット] → OK → [実行]

ご注意

- 設定リセット中は電源が切れないようにご注意ください。

キャリブレーション

タッチパネルのボタンを押したとき、反応するボタンの位置にずれが生じることがあります。このような症状になったときキャリブレーションを行います。

1 HOME → （設定） → ［本体設定］ → OK
→ ［キャリブレーション］ → OK

2 ペイントペンを使って画面に表示される×マークの中心を順番に押していく

ご注意

- ［キャンセル］をタッチしてキャリブレーションを途中でやめた場合は、ここまでの調整は反映されません。
- 正しい位置を押さなかった場合、キャリブレーションが行われません。×マークの中心を押しなおしてください。

ハウジング

ハウジング(マリンパック)装着時、ボタンの働きを変更します。ハウジングの取扱説明書も合わせてご覧ください。

1 HOME → (設定) → [本体設定] → OK → [ハウジング] → OK → 好みのモード → OK

	入( )	ボタンの働きを変更する。
✓	切	ボタンの働きを変更しない。

ご注意

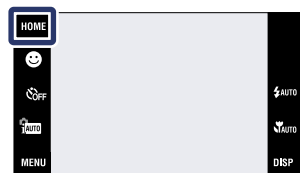
- 画面をタッチしてピント合わせをすることができません。
- DISP(画面表示)設定は[ノーマル]に固定されます。
- 機能の一部が制限され、液晶画面上のアイコンの配置が変わります。

デモモード

おまかせシーン認識やスマイルシャッターのデモンストレーションの有無を設定できます。デモンストレーションを見る必要のないときは、[切]に設定します。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを（静止画）にしてください。

1 HOME →（設定）→［本体設定］→ OK →［デモモード］→ OK → 好みのモード → OK

2 iAUTO（撮影モード）→ iAUTO（おまかせオート撮影）→ OK

	入	おまかせシーン認識やスマイルシャッターのデモンストレーションを行う。
✓	切	デモンストレーションを行わない。

おまかせシーン認識のデモンストレーションを見る

1 **被写体に本機を向ける**

シーン認識が行われると、認識したシーンのアイコンと説明が画面に表示される。

2 **シャッターボタンを押す**

通常の撮影同様、画像が記録される。

スマイルシャッターのデモンストレーションを見る

1 **☻（スマイルマーク）をタッチする**

2 **被写体に本機を向ける**

笑顔を検出すると、自動でシャッターが切れるが画像は記録されない。

3 **終了するときは、もう一度☻（スマイルマーク）をタッチする**

ご注意

- マクロは[オート]に固定されます。
- オートレビューは[入]に固定されます。
- DISP（画面表示）が[ノーマル]のとき、液晶画面上の一部のアイコンは非表示になります。
- おまかせシーン認識のデモンストレーション中に撮影をすると、おまかせシーン認識は[オート]に固定されます。
- スマイルシャッターのデモンストレーション中にシャッターボタンを押すとシャッターは切れますが、画像は記録されません。

HDMI解像度(DSC-T900のみ)

本機のマルチ出力スタンド(付属)とHDMI端子のあるハイビジョンテレビをHDMIケーブル(別売)で接続して見る場合に、HDMI端子からテレビに出力する解像度を選びます。

1 HOME → (設定) → [本体設定] → OK → [HDMI解像度] → OK → 好みのモード → OK

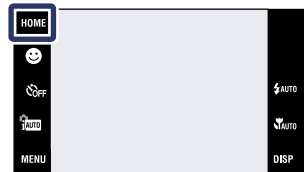
✓	オート	本機がハイビジョンテレビを自動認識し、出力する解像度を決定する。
	1080i	HD画質(1080i)で出力する。
	480p/576p	SD画質(480p/576p)で出力する。 • [ビデオ信号出力]が[NTSC]のときは480p、[PAL]のときは576pで出力されます。

ご注意

- [オート]で正しく画面が表示されない場合は、接続するテレビに合わせて、[1080i]または[480p/576p]を選んでください。
- 接続する機器のカラーテレビ方式に合わせて[ビデオ信号出力](71ページ)を設定してください。

HDMI機器制御(DSC-T900のみ)

HDMIケーブル(別売)を使ってブラビアリンク対応テレビをつないだ場合に、テレビのリモコンで本機を操作できます。ブラビアリンクについては128ページをご覧ください。

1 HOME → (設定) → [本体設定] → OK → [HDMI機器制御] → OK → 好みのモード → OK

✓	**入**	テレビのリモコンで操作をする。
	切	テレビのリモコンで操作をしない。

ご注意

- 2008年以降に発売されたブラビアリンク対応テレビで使用できます。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

コンポーネント出力

本機とテレビをHD出力アダプターケーブル（別売）を使って接続する場合に、接続するテレビに合わせてビデオ信号の種類を設定します。
DSC-T900をお使いの場合は「Type2c」、DSC-T90をお使いの場合は「Type1a」対応のHD出力アダプターケーブル（別売）をお使いください。

1 HOME → （設定） → ［本体設定］ → OK → ［コンポーネント出力］ → OK → 好みのモード → OK

✓	HD（D3）	D3/D4/D5端子があるテレビと接続するときに選ぶ。
	SD	D1/D2端子があるテレビと接続するときに選ぶ。

ご注意

- 本機とテレビをHD出力アダプターケーブル（別売）を使って接続した状態で動画を撮影した場合、テレビ側には撮影中の画像は表示されません。

ビデオ信号出力

接続するビデオ機器のカラーテレビ方式に合わせて設定します。

1 HOME → （設定）→［本体設定］→ OK → ［ビデオ信号出力］→ OK → 好みのモード → OK

✓	NTSC	ビデオ信号出力をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。
	PAL	ビデオ信号出力をPALモードに設定する（欧州、中国など）。

TVタイプ

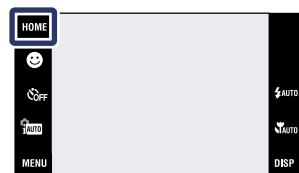
再生時、接続するテレビのタイプに合わせて設定します。

1 HOME → （設定） → ［本体設定］ → OK → ［TVタイプ］ → OK → 好みのモード → OK

✓	16:9	ワイドテレビで再生するときに選ぶ。
	4:3	4:3テレビで再生するときに選ぶ。

USB接続

本機とパソコンまたはPictBridge対応プリンターをUSBケーブル（DSC-T900）または、マルチ端子専用ケーブル（DSC-T90）で接続するときのモードを設定します。

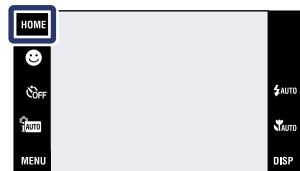
1 HOME → （設定） → ［本体設定］ → OK → ［USB接続］ → OK → 好みのモード → OK

✓	**オート**	本機がパソコン、またはPictBridge対応プリンターを自動認識して接続する。
	PictBridge	本機とPictBridge対応プリンターを接続する。
	PTP/MTP	本機とパソコンを接続した場合は自動再生ウィザードが起動し、本機に設定されている記録フォルダ内の静止画をパソコンに取り込む。（Windows Vista/XP、Mac OS Xに対応）
	Mass Storage	本機とパソコン、その他USB機器をMass Storage接続する。

ご注意

- ［オート］で本機とPictBridge対応プリンターを接続できない場合は、［PictBridge］に設定し直してください。
- ［オート］で本機とパソコン、その他USB機器を接続できない場合は、［Mass Storage］に設定し直してください。
- ［PTP/MTP］では、動画の取り込みはできません。動画をパソコンに取り込むときは、［オート］または［Mass Storage］に設定してください。

AFイルミネーター

AFイルミネーターとは、暗所でフォーカスを合わせるための補助光です。シャッターボタンを半押ししてフォーカスがロックされるまでの間、自動的に赤い補助光が発光して、フォーカスを合わせやすくします。このとき画面にが表示されます。

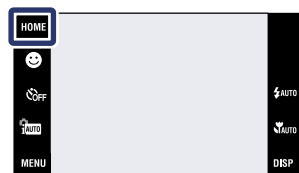
1 HOME → （設定） → [撮影設定] → OK → [AFイルミネーター] → OK → 好みのモード → OK

✓	**オート**	AFイルミネーターを使用する。
	切	使用しない。

ご注意

- AFイルミネーターの光が画像の中心からずれる場合がありますが、光が被写体に届いていれば、フォーカスは合います。
- 以下のときは、AFイルミネーターは使えません。
  - [フォーカス]がセミマニュアル設定のとき
  - シーンセレクションが（風景）、（夜景）、（打ち上げ花火）、（高速シャッター）に設定されているとき
  - [ハウジング]が[入]のとき
- AFイルミネーターを使用するときは、AF測距枠設定は無効になり、AF測距枠は点線で表示されます。中央付近の被写体を優先したAF動作になります。
- AFイルミネーターは明るい光です。安全には問題ありませんが、至近距離で直接人の目に当たらないようにお使いください。

グリッドライン

グリッドラインを画面に表示して撮影すると、グリッドラインを基準にして水平/垂直のライン合わせができます。

1 HOME → （設定）→［撮影設定］→ OK → ［グリッドライン］→ OK → 好みのモード → OK

	入	グリッドラインを表示する。グリッドラインは記録されない。
✓	**切**	グリッドラインを表示しない。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

デジタルズーム

デジタルズームの設定をします。本機はレンズの倍率(4倍)まで光学ズームを行い、それを超えるとスマート/プレシジョンいずれかのデジタルズームを行います。

1 HOME → (設定) → [撮影設定] → OK → [デジタルズーム] → OK → 好みのモード → OK

✓	**スマート(sQ)**	画像サイズに応じて、画像が劣化しない範囲内にデジタルズーム倍率を制限する(スマートズーム)。
	プレシジョン(PQ)	画像サイズの設定にかかわらず、光学ズーム4倍含む、総合ズーム倍率約8倍までズームをする。光学ズーム倍率を超えると、画像は劣化する(プレシジョンデジタルズーム)。
	切	デジタルズームを使用しない。

ご注意

- 動画撮影時、スマイルシャッター中は、デジタルズームできません。
- 画像サイズが[12M]、[3:2(11M)]、[16:9(9M)]のときは、スマートズームできません。
- デジタルズームのとき、顔検出は働きません。

スマートズーム時の総合ズーム倍率(光学ズーム4倍含む)

画像サイズによって、ズームできる倍率は変わります。

画像サイズ	総合倍率
8M	約4.9倍
5M	約6.2倍
3M	約7.8倍
VGA	約25倍
16:9 (2M)	約8.3倍

縦横判別

縦位置で撮影したとき、回転情報を記録して画像を縦に表示します。

1 HOME → (設定) → [撮影設定] → OK
→ [縦横判別] → OK → 好みのモード →
OK

✓	入	画像の縦横を判別して記録する。
	切	使用しない。

ご注意

- 縦位置の画像は左右が黒く表示されます。
- 本機の撮影角度によっては、画像の縦横向きを正しく記録できない場合があります。
- シーンセレクションが(水中)のとき、または動画撮影時は[縦横判別]は使えません。
- ACアダプター（別売）、マルチ端子専用USB・AV・DC INケーブル（別売）をお使いの場合、縦横判別できない場合があります。DSC-T900をお使いのお客様は「Type2c」、DSC-T90をお使いのお客様は「Type1a」のマルチ端子専用USB・AV・DC INケーブル（別売）をお使いください。

撮影後に画像を回転する

- 画像の向きが正しく記録されなかった場合は、再生メニューの[回転]で画像を縦に表示できます。

オートレビュー

静止画撮影直後に、記録した画像を約2秒間画面に表示します。

1 HOME → (設定) → [撮影設定] → OK → [オートレビュー] → OK → 好みのモード → OK

✓	入	オートレビューを使用する。
	切	使用しない。

すぐに次の撮影をしたい

- シャッターボタンを半押しすると、オートレビューを[入]にしていても記録画像の表示が消え、すぐに次の撮影ができます。

オートレビューの画像を見つづけたい

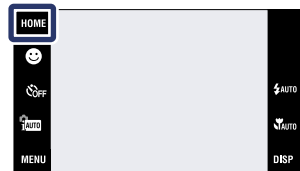
- 撮影直後、シャッターボタンを押したままにしていると、その間はオートレビュー画像が表示され続けます。

時計設定

時刻を再設定します。

1 HOME → 🧰（設定）→［時計設定］→ OK
　→［時計設定］→ OK

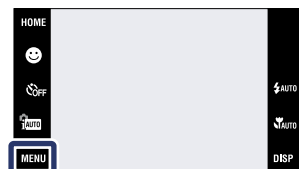
2 お好みの日付表示設定 → ➡ → 設定する項目をタッチして数値を設定 →［実行］

　真夜中は12:00AM、正午は12:00PMです。

ご注意

- 本機には画像に日付を挿入する機能はありません。CD-ROM（付属）に収録されている「PMB」を使用すると、日付を入れて保存/印刷できます。

画像サイズ

画像サイズは写真を記録するときの大きさのことです。
画像サイズが大きいほど、大きな用紙にも詳細にプリントできます。小さくすると、たくさん撮影できます。画像の楽しみかたによって見たいサイズを選びます。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 MENU → 4:3 12M（画像サイズ）→ 好みのサイズ → OK

静止画撮影

	静止画画像サイズ	用途例	本機の液晶表示
✓	4:3 12M (4000 × 3000)	A3ノビまでの印刷	縦横比4:3または3:2で表示。
	4:3 8M (3264 × 2448)	A3サイズまでの印刷	
	4:3 5M (2592 × 1944)	A4サイズまでの印刷	
	4:3 3M (2048 × 1536)	L/2L判までの印刷	
	4:3 VGA (640 × 480)	Eメールに添付	
	3:2 11M (4000 × 2672)	写真の印画紙、ポストカード同様に3:2の縦横比で撮影	
	16:9 9M (4000 × 2248)	ハイビジョン対応テレビでの鑑賞	画面いっぱいに表示。
	16:9 2M (1920 × 1080)		

ご注意

- 16:9で撮影した画像は、プリント時に両端が切れることがあります。

かんたん撮影

✓	**大**	[12M]で撮影
	小	[3M]で撮影

動画撮影

画像サイズは大きいほど高精細になります。1秒間に使用されるデータ量(平均ビットレート)は、多いほどなめらかな動きになります。
本機の動画はMPEG-4、約30フレーム/秒、プログレッシブ、AAC音声、mp4形式で記録されます。

	動画画像サイズ	平均ビットレート	用途の例
✓	720 FINE 1280 × 720（ファイン）	9Mbps	ハイビジョンテレビ用に高画質で撮影
	720 STD 1280 × 720（スタンダード）	6Mbps	ハイビジョンテレビ用に標準画質で撮影
	VGA VGA	3Mbps	WEBアップロードに適したサイズで撮影

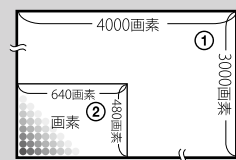
ご注意

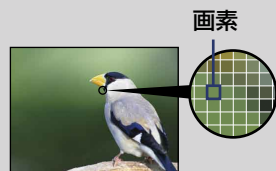
- 動画で[VGA]を選択した場合は、望遠よりの画像になります。
- 画像サイズが[1280×720]の動画は"メモリースティック PRO デュオ"のみに記録できます。"メモリースティック PRO デュオ"以外の記録メディアをお使いの場合は、動画の画像サイズを[VGA]に設定してください。

次のページにつづく↓

「画素」と「画像サイズ」について

デジタル写真は「画素(ピクセル)」という小さな点が集まって作られています。「画素」を多く使うと、写真は大きく、データ量は多く、画面は精細になります。「画像サイズ」とはこの画素数を指します。本機の画面では違いはわかりませんが、プリントしたりパソコンの画面で見たときに、写真の精細さやデータ処理時間に影響します。

画素と画像サイズのイメージ

① 画像サイズ：12M
4000画素×3000画素＝12000000画素

② 画像サイズ：VGA
640画素×480画素=307200画素

画素数が多い
(細密で、データ量が多い)

画素数が少ない
(粗いが、データ量が少ない)

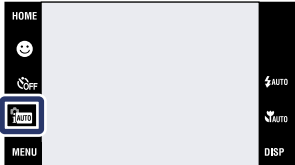
フラッシュ

EASY（かんたん撮影）モードのときは、MENUからフラッシュの設定を選びます。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを📷（静止画）にしてください。

1 **レンズカバーを下げて、撮影モードにする**

2 **iAUTO（撮影モード）→EASY（かんたん撮影）→ OK**

3 **MENU →［フラッシュ］→好みのモード→ OK**

✓	**オート**	光量不足または逆光と判別したとき発光する。
	切	使用しない。

撮影モード

1枚撮影、連写、ブラケット撮影から撮影モードを選べます。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを(静止画)にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 MENU → (撮影モード) → 好みのモード → OK

✓	**(通常撮影)**	1枚撮影する。
	(連写)	シャッターボタンを押し続けている間、最大100枚連写する。 **ご注意** • EASY(かんたん撮影)、動画撮影時、スマイルシャッター中は、連写できません。 • フラッシュは(発光禁止)になります。 • セルフタイマーで連写すると、最大5枚の連続撮影となります。 • 画像サイズによって撮影の間隔が長くなることがあります。 • バッテリーの残量が少ない、または内蔵メモリー/"メモリースティック デュオ"の容量がいっぱいになると、連写は停止します。 • フォーカス、色合い(ホワイトバランス)、明るさ(EV補正)は最初の1枚目に設定された値に固定されます。

次のページにつづく ↓

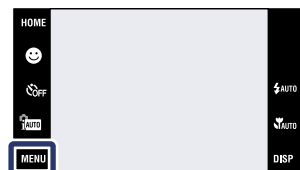
	BRK±0.3EV BRK±0.7EV BRK±1.0EV	3通りの異なった露出で、静止画を3枚撮影する（ブラケット）。被写体の明るさによってうまく撮影できないときに、ブラケット撮影で露出を変えながら撮影すれば、撮影したあと最適な露出の画像を選ぶことができる。 値が大きいほど、露出のずれも大きくなる。 **ご注意** • iAUTO（おまかせオート撮影）、EASY（かんたん撮影）、動画撮影時、スマイルシャッター中は、ブラケット撮影できません。 • フラッシュは（発光禁止）になります。 • フォーカスと色合い（ホワイトバランス）は、最初の1枚目に設定された値に固定されます。 • 明るさ（EV補正）をしているときは、補正した明るさを基準に露出が変わり撮影されます。 • 撮影状況によって撮影の間隔が長くなることがあります。 • 被写体が明るすぎたり暗すぎたりするときは、設定した補正量で撮影できない場合があります。

明るさ（EV補正）

－2.0EVから＋2.0EVの範囲で、1/3EV単位で露出を手動調節できます。

PGM（プログラムオート撮影）時の明るさ（EV補正）については、38ページをご覧ください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

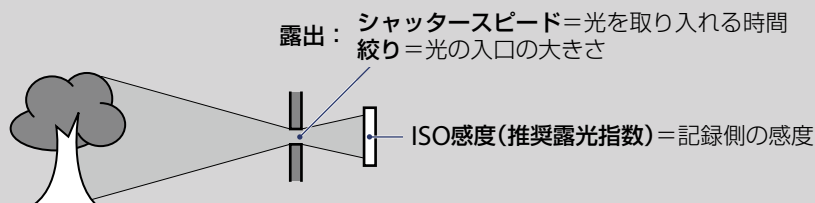
2 MENU → 0EV（明るさ（EV補正））→ 好みの数値 → OK

ご注意

- EASY（かんたん撮影）のときは、明るさ（EV補正）は選べません。
- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュ撮影時は、補正が効かないことがあります。

光の量を調整して好みの画像を撮る

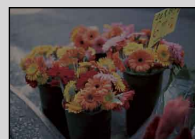
露出と記録感度を調整することで、さまざまな仕上がりにすることができます。
露出とはシャッターを切ったときに取り入れる光の量のことです。

露出： **シャッタースピード**＝光を取り入れる時間
絞り＝光の入口の大きさ

ISO感度（推奨露光指数）＝記録側の感度

露出オーバー＝光が多すぎる
画面が白くなる

明るさ（EV補正）を－側にする

露出が適正

明るさ（EV補正）を＋側にする

露出アンダー＝光が少なすぎる
画面が暗くなる

ISO

明るさの感度を設定します。

PGM(プログラムオート撮影)時のISOについては、37ページをご覧ください。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを📷(静止画)にしてください。

1 **レンズカバーを下げて、撮影モードにする**

2 **iAUTO(撮影モード) → SCN(シーンセレクション) → 🐟(水中) → OK**

3 **MENU → ISO AUTO(ISO) → 好みの数値 → OK**

✓	ISO AUTO(オート)	カメラが自動で設定する。
	ISO 80/ISO 100/ISO 200/ISO 400/ISO 800/ISO 1600/ISO 3200	暗い場所や動いている被写体を撮影する場合、ISO感度を上げる(数値を大きくする)と、ブレを軽減できる。

ご注意

- 連写、ブラケット時、DROが[プラス]のときは[ISO AUTO]、[ISO 80] ～ [ISO 800]までしか選べません。

ISO感度(推奨露光指数)の調整

ISO感度とは、光を受け取る撮像素子を含めた記録側の感度値です。同じ露出で撮影しても、設定によって仕上がる画像が変わります。

ISO感度が高い

シャッタースピードを速くしてブレを軽減し、露出が足りない場所でも、明るめに記録できます。
ただし、画像にノイズが増えます。

ISO感度が低い

ノイズの少ない画像を撮影することができます。
ただし露出が足りない場合は、画像は暗めに記録されることがあります。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

色合い（ホワイトバランス）

画像の色がおかしいと感じたときなどに、撮影場所の光の状況に合わせて調整します。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 MENU → WB AUTO（色合い（ホワイトバランス））→ 好みのモード → OK

✓	WB AUTO（オート）	自然な色合いになるよう、ホワイトバランスを自動調節する。
	（太陽光）	晴天の屋外や、夕景、夜景、ネオン、花火などに合わせる。
	（曇天）	曇り空や日陰に合わせる。
	（蛍光灯1） （蛍光灯2） （蛍光灯3）	［蛍光灯1］：白色蛍光灯の光に合わせる。 ［蛍光灯2］：昼白色蛍光灯の光に合わせる。 ［蛍光灯3］：昼光色蛍光灯の光に合わせる。
	（電球）	白熱球や、スタジオなどのビデオライトに合わせる。
	WB（フラッシュ）	フラッシュ光に合わせる。

ご注意

- iAUTO（おまかせオート撮影）、EASY（かんたん撮影）時は、色合い（ホワイトバランス）は選べません。
- シーンセレクションのときは、ISO（高感度）、（料理）時のみ選べます。
- 動画撮影時、シーンセレクションがISO（高感度）のときは、［色合い（ホワイトバランス）］の［フラッシュ］は選べません。
- ちらつきのある蛍光灯下では、［蛍光灯1］、［蛍光灯2］、［蛍光灯3］を選んでもうまく合わないことがあります。
- ［フラッシュ］以外のときフラッシュ発光して撮影すると、［色合い（ホワイトバランス）］は［オート］になります。

次のページにつづく↓

光の影響について

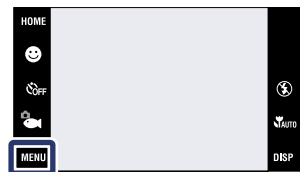
被写体の見た目の色は、その場の光の影響を受けます。
本機はこの変化を適正にするように自動調整しますが、ホワイトバランスを使うと、よりお好みの色合いに調整できます。

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
光の特性	基準となる白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

水中ホワイトバランス

シーンセレクションで(水中)、または動画撮影モードで(水中)を選んでいるときの色合いを調整します。

1 MENU → (水中ホワイトバランス) → 好みのモード → OK

✓	(オート)	水中で自然な色合いになるように自動調整する。
	(水中1)	青色の強い水中に合わせる。
	(水中2)	緑色の強い水中に合わせる。

ご注意

- 海の色によっては、[水中1]、[水中2]を選んでもうまく合わないことがあります。
- フラッシュが(強制発光)のとき、[水中ホワイトバランス]は選べません。

フォーカス(動画)

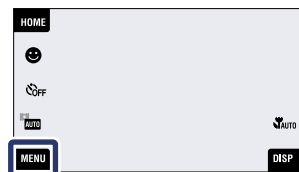
ピント合わせの方法を変更します。ピントが合いにくいときなどに使います。

PGM(プログラムオート撮影)時のフォーカスについては、34ページをご覧ください。

DSC-T900：

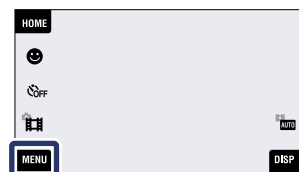
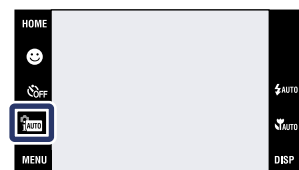
1 モードスイッチを(動画)にする

2 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

3 MENU→ (フォーカス)→ 好みのモード→ OK

DSC-T90：

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 iAUTO(撮影モード)→(動画撮影) → OK

3 MENU → (フォーカス) → 好みのモード → OK

✓	(マルチAF)	画面全体を基準に、自動ピント合わせする。
	∞(無限遠)	無限遠にピントを合わせる。 • 網やガラス越しの撮影など、オートフォーカスが効きにくいときに便利です。

ご注意

• 動画撮影モードが(水中)のときは[マルチAF]に固定されます。

測光モード(動画)

動画撮影時、本機が自動で露出を決めるとき、画面のどの部分で光を測るか(測光)を設定します。

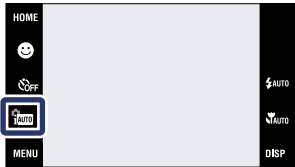
PGM(プログラムオート撮影)時の測光モードについては、36ページをご覧ください。

DSC-T900：

1 モードスイッチを(動画)にする
2 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
3 MENU→(測光モード)→好みのモード→OK

DSC-T90：

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 (撮影モード)→(動画撮影) → OK

3 MENU → (測光モード) → 好みのモード → OK

✓	(マルチ)	画面を多分割して測光し、全体のバランスをとって自動調節する(マルチパターン測光)。
	(中央重点)	画面の中央部に重点をおいて測光し、中央部付近の明るさを基準に露出を決める(中央重点測光)。

おまかせシーン認識

本機が自動的に撮影状況を認識して撮影します。
顔を検出すると、顔の動きに応じてISO感度が上がり被写体ブレを軽減します（顔動き検出）。

シーン認識マーク
以下のシーンを認識します。本機が最適なシーンを判別すると、各マークが表示されます。
（夜景）、（夜景＆人物）、（三脚夜景）、（逆光）、（逆光＆人物）、（風景）、（マクロ）、（人物）

逆光が働いた写真例

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを（静止画）にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 （撮影モード）→ （おまかせオート撮影）→ ✕ または OK

3 MENU → （おまかせシーン認識）→ 好みのモード → OK

✓	（オート）	シーン認識すると、最適な設定に切り替わり、撮影する。
	（アドバンス）	シーン認識すると、最適な設定に切り替わり、（夜景）、（夜景＆人物）、（三脚夜景）、（逆光）、（逆光＆人物）を認識すると、自動的にもう1枚撮影される。 • 2枚撮影される場合には、のアイコンの+部分が緑色になります。 • 2枚撮影されると、オートレビューは2枚並んで表示されます。 • （人物）認識時に被写体が目をつぶると本機が自動的にもう1枚撮影します。2枚目の撮影で目を開けている画像が撮れた場合は、2枚目の画像のみ記録します。目つぶり軽減機能について詳しくは、「目つぶり軽減機能とは」をご覧ください。

次のページにつづく↓

ご注意

- 拡大鏡、デジタルズーム撮影時は、おまかせシーン認識は働きません。
- 連写、スマイルシャッター中は、おまかせシーン認識は[オート]に固定されます。
- フラッシュは、(オート)または(発光禁止)になります。
- (三脚夜景)認識は、カメラを三脚に固定していてもカメラに振動が伝わる環境では認識できない場合があります。
- (三脚夜景)認識されると、スローシャッターになる場合があります。撮影中はそのままカメラを動かさないようにしてください。
- シーン認識マークはDISP(画面表示)の設定にかかわらず表示されます。
- 状況によっては、これらのシーンはうまく認識されない場合があります。

[アドバンス]で撮れる画像について

[アドバンス]では、失敗しやすい(夜景)、(夜景＆人物)、(三脚夜景)、(逆光)、(逆光＆人物)を認識すると、下記のように設定を変えて、効果の異なる2枚の画像を撮影します。
後からお好みの1枚を選ぶことができます。

	1枚目*	2枚目
	スローシンクロで撮影	感度を上げて、ブレを軽減して撮影
	フラッシュがあたっている顔を基準にスローシンクロで撮影	顔を基準に感度を上げて、ブレを軽減して撮影
	スローシンクロで撮影	よりスローシャッターにし、感度は上げずに撮影
	フラッシュを使って撮影	背景の明るさ、コントラストを調整して撮影(DROplus)
	フラッシュがあたっている顔を基準に撮影	顔と背景の明るさ、コントラストを調整して撮影(DROplus)

* フラッシュは[オート]の場合です。

目つぶり軽減機能とは

[アドバンス]に設定して撮影したとき、(人物)認識時はカメラが自動的に2枚撮影*し、目つぶりしていない画像が自動選択され表示、記録されます。目をつぶっている画像しか撮影できなかった場合は、[目つぶりを検出しました]というメッセージが表示されます。

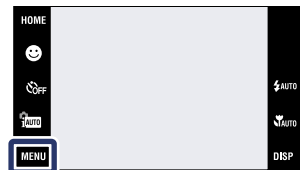
* フラッシュ発光時/スローシャッター時を除く

スマイル検出感度

スマイルシャッター機能で笑顔を検出する感度を設定します。

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを(静止画)にしてください。

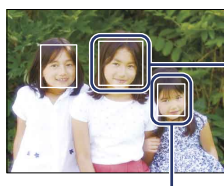
1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 MENU → (スマイル検出感度) → 好みのモード → OK

	(大笑い)	大笑いで検出する。
✓	**(普通の笑顔)**	普通の笑顔で検出する。
	(ほほ笑み)	ほほ笑み程度でも検出する。

ご注意

- 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。
- EASY(かんたん撮影)時、動画撮影時は[スマイル検出感度]は選べません。
- シーンセレクションのときは、ISO(高感度)、(ソフトスナップ)、(夜景＆人物)、(ビーチ)、(スノー)、(高速シャッター)時のみ選べます。

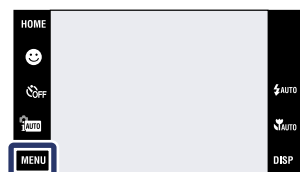
顔検出

顔検出機能を使うか使わないかを設定したり、使う場合はピント合わせの優先対象を設定できます。
カメラが人物の顔を判別して、フォーカス/フラッシュ /明るさ(EV補正) /色合い(ホワイトバランス) /赤目軽減発光の調整をします。

顔検出枠(オレンジ色)
複数の顔を検出している場合、カメラが主要被写体を判断して優先的にピントを合わせます。
主要被写体は顔検出枠がオレンジ色になります。
シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った枠は緑色になります。

顔検出枠(白色)

DSC-T900をお使いの場合、モードスイッチを(静止画)にしてください。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 MENU → (顔検出) → 好みのモード → OK

	(タッチ時)	画面の顔部分にタッチしたとき顔検出する。
✓	(オート)	カメラまかせでピント合わせする顔を選ぶ。
	(こども優先)	子どもの顔を優先してピント合わせする。
	(おとな優先)	大人の顔を優先してピント合わせする。

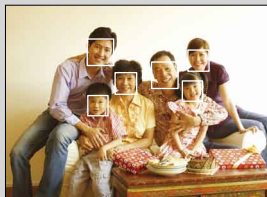
ご注意

- EASY(かんたん撮影)、動画撮影時は、[顔検出]は[オート]に固定されます。
- フォーカスが[マルチAF]、測光モードが[マルチ]のときのみ、[顔検出]は選べます。
- デジタルズームのとき、顔検出機能は働きません。
- 最大8人の顔を検出できます。ただし、シーンセレクションが(ソフトスナップ)のときは、4人まで検出します。
- 状況によっては大人、子どもが正しく検出できない場合があります。
- スマイルシャッター撮影するときは、[顔検出]を[タッチ時]に設定しても自動的に[オート]になります。

優先的にピントを合わせるには

- ピント合わせを優先したい被写体の顔をタッチすると、優先対象の設定に関わらずその顔が優先されます。
- 複数の顔を検出している場合、カメラが主要被写体を判断して優先的にピントを合わせます。主要被写体は顔検出枠がオレンジ色になります。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔検出枠は緑色になります。

次のページにつづく↓

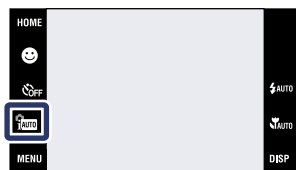
顔検出しやすくするには

- 適度に明るい場所で撮影する。
- 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。
- 顔をカメラ正面に向ける。

フラッシュレベル

フラッシュの発光量を調節します。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 iAUTO(撮影モード) → PGM(プログラムオート撮影) → OK

3 MENU → STD(フラッシュレベル)→ 好みのモード → OK

	–(−)	発光量を減らす。
✓	STD(標準)	
	+(+)	発光量を増やす。

ご注意

- 被写体が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、効果が出ない場合があります。

目次

やりたいことから探す

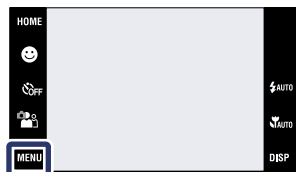
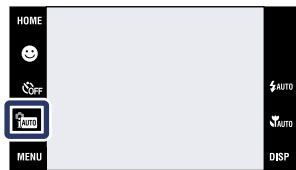
HOME/MENUから探す

索引

目つぶり軽減

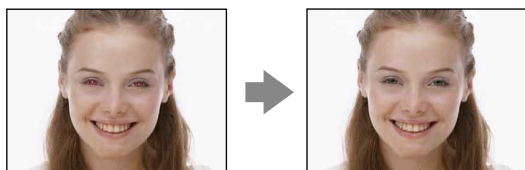
シーンセレクションで（ソフトスナップ）を選んで撮影したときに、カメラが自動的に2枚撮影し、目つぶりしていない画像が自動選択され表示、記録されます。

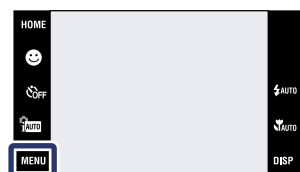
1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする
2 （撮影モード）→（ソフトスナップ）→ OK

3 MENU →（目つぶり軽減）→ 好みのモード → OK

✓	（オート）	顔検出したとき、目つぶり軽減機能が働き、目つぶりしていない画像を記録します。
	（切）	目つぶり軽減機能を使わない。

ご注意
- 以下のとき、目つぶり軽減機能は働きません。
  – フラッシュ発光時
  – 連写、ブラケット時
  – 顔検出が働かないとき
  – スマイルシャッター時
- 状況によっては目つぶり軽減できない場合があります。
- 目つぶり軽減機能を[オート]にしても、目を閉じている画像しか記録されなかった場合には、液晶画面に「目つぶりを検出しました」と表示されます。必要に応じて再度、撮影してください。

赤目軽減

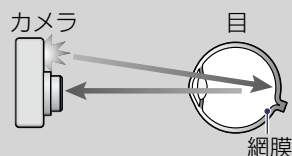
フラッシュ撮影時に目が赤く写るのを軽減するため、フラッシュが2回以上予備発光します。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 MENU → (赤目軽減) → 好みのモード → OK

✓	(オート)	顔検出機能が働いているとき、自動で赤目軽減発光する。
	(入)	常に赤目軽減発光する。
	(切)	赤目軽減発光しない。

ご注意

- EASY(かんたん撮影)、動画撮影時、スマイルシャッター中は、赤目軽減は選べません。
- シャッターが切れるまで約1秒かかるので、カメラをしっかり構えて手ブレを防いでください。また、被写体が動かないようにしてください。
- 赤目軽減の効果には個人差があります。また被写体までの距離や、予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が表れにくいことがあります。
- 顔検出機能を使用しない場合は、[オート]を選択しても赤目軽減は動作しません。

なぜ目が赤く写ってしまうの?

暗い場所では目の瞳孔が開いており、フラッシュ光によって網膜の血管が写し出され、目が赤く写ってしまうことがあります。

その他の軽減方法

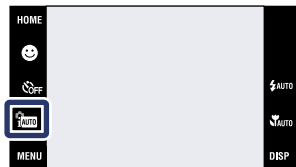
- ISO(高感度)に設定して撮影する。(フラッシュは(発光禁止)になります。)
- 赤目で写ってしまった場合は、再生メニューの[加工] → [赤目補正]、または付属のソフトウェア「PMB」で修正する。

DRO

撮影シーンを分析し、自動補正をおこなって画質を向上させます。
DROとは「Dynamic Range Optimizer」の略で、画像の明暗の差を最適になるように自動補正する機能のことです。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 iAUTO（撮影モード）→ PGM（プログラムオート撮影）→ OK

3 MENU → D-R（DRO）→ 好みのモード → OK

	D-R OFF（切）	補正しない。
✓	D-R（スタンダード）	撮影画像の明るさ、コントラストを自動補正する。
	D-R Plus（プラス）	撮影画像の明るさ、コントラストを強めに自動補正する。

ご注意

- 撮影状況によっては、補正効果を得ることができない場合があります。
- [プラス]のとき、ISOの値は、[ISO AUTO]、[ISO 80]～[ISO 800]までしか選べません。

カラーモード

画像の鮮やかさを変えたり、特殊効果を加えて撮影できます。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 MENU → (カラーモード) → 好みのモード → OK

✓	(標準)	標準的な色合いにする。	
	(ビビッド)	鮮やかで深い色合いにする。	
	(セピア)	古い写真のような色合いにする。	
	(モノトーン)	画像を白黒にする。	

ご注意

- 撮影モードが(おまかせオート撮影)、シーンセレクションのとき、カラーモードの選択はできません。
- 動画撮影時は、[標準]、[セピア]、[モノトーン]に項目が限られます。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

手ブレ補正

手ブレ補正の種類を選びます。

1 レンズカバーを下げて、撮影モードにする

2 → (手ブレ補正) → 好みのモード → OK

✓	(撮影時)	シャッターボタンを半押しすると手ブレ補正が働く。
	(常時)	常に手ブレ補正が働く。遠くを拡大して撮影するときでも構図を安定させることができる。
	(切)	使用しない。

ご注意

- (おまかせオート撮影)、EASY(かんたん撮影)、シーンセレクションが(料理)のときは、[手ブレ補正]は[撮影時]になります。
- スマイルシャッター中は[常時]に固定されます。
- 動画撮影では、選べる項目が[常時]と[切]のみになります。動画撮影の初期設定は、[常時]です。
- [常時]のときは、[撮影時]よりもバッテリーの消費が早くなります。

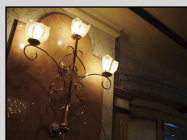
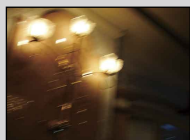
目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

次のページにつづく↓

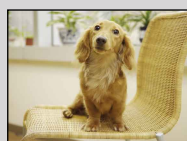
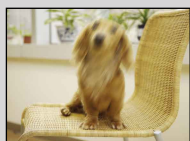
ブレを起こさないためには

撮影時にカメラが動くと「手ブレ」、被写体が動くと「被写体ブレ」が起こります。
(夜景＆人物)や(夜景)など、暗い場所やシャッタースピードが遅くなるような状況では、手ブレ、被写体ブレも起こりやすくなるため、下記の軽減方法を参考にしてください。

手ブレ

シャッターボタンを押したときに、カメラを持つ手や体が揺れて画面全体がブレてしまう。

- 三脚を使用したり、カメラを平らな場所に置き、固定する。
- セルフタイマーを2秒に設定して、シャッターを押したあとにしっかりと構え直す。

被写体ブレ

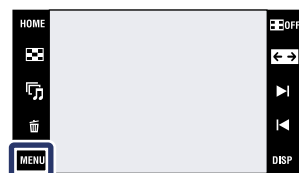
カメラを固定していても、シャッターボタンを押したときに被写体が動いてしまい、ブレが起こる。手ブレ補正機能で自動的に手ブレは軽減できますが、被写体ブレには効果はありません。

- ISO(高感度)に設定して撮影する。
- ISO感度の設定を上げてシャッタースピードを速くし、被写体が動く前にシャッターを切る。

日付リスト

日付ビューで再生する日付を選べます。
すでに日付ビューの設定になっている場合は、手順2は不要です。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (日付ビュー) → OK
3 MENU → (日付リスト) → OK

4 ▲/▼で表示したい月を選択し、日付を選びタッチする

ご注意

- 内蔵メモリー使用時は表示されません。

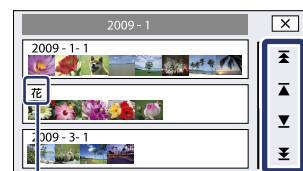
イベントリスト

イベントビューで再生するイベントを選べます。
「PMB」(付属)を使うと、好きなイベント名を入れられます。イベント名の入れ方について詳しくは「PMBガイド」をご覧ください。
すでにイベントビューの設定になっている場合は、手順2は不要です。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (イベントビュー) → OK
3 MENU → (イベントリスト) → OK

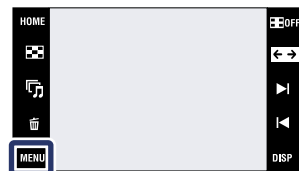
4 ⏶/⏷/⏫/⏬で表示したいイベントを選択し、イベントを選びタッチする

ご注意

- 内蔵メモリー使用時は表示されません。

再生フォルダ選択

“メモリースティック デュオ”内に複数のフォルダがあるとき、再生したい画像の入っているフォルダを選びます。
すでにフォルダビューの設定になっている場合は、手順2は不要です。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (フォルダビュー) → OK
3 MENU → (再生フォルダ選択) → OK → ▲/▼で再生したいフォルダを選択 →[実行]

ご注意

- 内蔵メモリー使用時は表示されません。

フォルダをまたいで画像を見るには

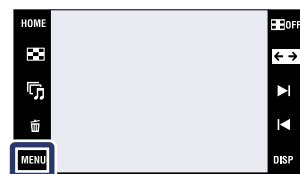
複数のフォルダがあるときは、フォルダ内の最初/最後の画像に下記のマークが表示されます。

- ：前のフォルダに移動可能
- ：後ろのフォルダに移動可能
- ：前/後のフォルダに移動可能

ビューモード

画像を表示する方法を選び、一覧表示します。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする

2 MENU → (ビューモード) → 好みのモード → OK

✓	(日付ビュー)	日付ごとに分けて表示する。(日付リスト)をタッチすると、カレンダー表示から再生したい日付を選べます。	
	(イベントビュー)	撮影日時や頻度を分析し、自動でグループ分けして表示する。(イベントリスト)をタッチすると、再生したいイベントを選べます。	
	♡(お気に入り)	お気に入り登録した画像を表示する。再生したいお気に入り番号をタッチする。	
	(フォルダビュー)	フォルダごとに表示する。記録フォルダが作成されている場合、(再生フォルダ選択)をタッチすると、再生したいフォルダを選べます。	

ご注意

- 内蔵メモリー使用時はフォルダビューで表示されます。
- 他機で撮影した画像を再生できない場合は、フォルダビューで再生してください。

次のページにつづく↓

他機で撮った画像を見るときは

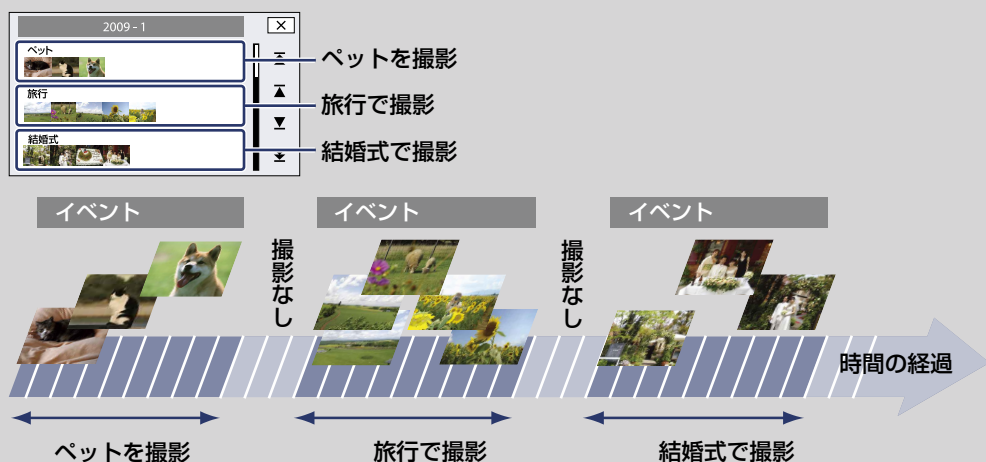
本機で撮った画像と、他機で撮った画像の両方が入っている"メモリースティック デュオ"を本機に入れると、再生方法を選ぶ画面が表示されます。
「管理された画像のみ再生」「フォルダビューで全て再生」

「管理された画像のみ再生」を選ぶと、設定しているビューモードで再生します。この場合、本機で撮影した画像以外は再生されない場合があります。

「フォルダビューで全て再生」を選ぶと、フォルダビューに切り替わってすべての画像を再生します。

[イベントビュー]とは

撮影日時や頻度などからカメラが自動的にイベントを認識し、画像をグループ分けして表示する機能です。付属のソフトウェア「PMB」を使えば、イベントごとに名前を付けて管理もでき、便利です。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

画像絞込み

画像を絞り込んで表示します。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (画像絞込み) → 好みのモード → OK

(切)	絞込みをしない。
(人物の顔)	指定した条件で、画像を絞り込んで表示する。
(こどもの顔)	
(赤ちゃんの顔)	
(笑顔)	

ご注意

- 内蔵メモリー使用時は表示されません。
- ビューモードが[フォルダビュー]のとき、画像絞込みできません。
- 誤って表示/非表示することがあります。
- 他機で撮影した画像では、絞込みできない場合があります。

お気に入り登録/解除

お気に入りの画像を選んで、グループに分けて登録/解除ができます。
登録された画像には♡マークが表示されます。

ご注意

- ビューモードが[フォルダビュー]のとき、お気に入り登録/解除はできません。
- 内蔵メモリー使用時は表示されません。

見ている画像を登録する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 登録したい画像を表示→ MENU → ♡(お気に入り登録/解除) → ♡(この画像) → OK → 登録したいお気に入り番号 → [実行]

何枚か選んで登録する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → ♡(お気に入り登録/解除) → ♡(画像選択) → OK → 登録したいお気に入り番号
3 画像を選ぶ

1枚再生時

① ▶I/I◀で画像を選び、登録したい画像をタッチする。
② 手順①を繰り返す。

一覧表示時

① ▲/▼でページをめくって登録したい画像をタッチする。
② 他の画像も登録したいときは、手順①を繰り返す。

4 → → [実行]

ご注意

- ✓マークが付いた画像をもう一度タッチすると、お気に入り登録が解除されます。

日付内/イベント内すべての画像を登録する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (日付ビュー)または(イベントビュー) → OK
3 ▲/▼で登録したい日付またはイベントを選ぶ
4 MENU → ♡(お気に入り登録/解除) → (日付内全て登録)または(イベント内全て登録) → OK → 登録したいお気に入り番号 → [実行]

日付内/イベント内すべての画像を解除する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (日付ビュー)または(イベントビュー) → OK
3 ▲/▼で解除したい日付またはイベントを選ぶ
4 MENU → ♡(お気に入り登録/解除) → (日付内全て解除)または(イベント内全て解除) → OK → 解除したいお気に入り番号 → [実行]

お気に入り内すべての画像を解除する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → ♡(お気に入り) → OK
3 解除したいお気に入り番号を選ぶ
4 MENU → ♡(お気に入り登録/解除) → (お気に入り内全て解除) → OK → [実行]

加工

撮影した画像に補正や特殊効果をかけ、新しいファイルとして記録します。
元の画像はそのまま残ります。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (加工) → 好みのモード → OK
3 各モードの操作方法に従って、実行する

(トリミング)	再生ズームの画像を一部切り取る。 ⊕/⊖をタッチする → ▲/▼/◀/▶で位置調整する → ➡ → ◀/▶ で保存する画像サイズを選ぶ → ➡ → ［実行］ • トリミングすると画質は劣化します。 • 画像によってトリミングできる画像サイズは異なります。	
(赤目補正)	フラッシュ撮影時に赤く映った目を補正する。 赤目補正が完了したら、［実行］をタッチする。 • 画像によっては補正できない場合があります。	
(ピントくっきり補正)	中心とする枠を決め、画像をくっきりと補正する。 中心とする枠をタッチする → ➡ → ［実行］ • 画像によっては、充分な補正がかからなかったり、画像が劣化する場合があります。	
(ソフトフォーカス)	中心点を決め、周囲をぼかして被写体を引き立たせる。 加工する中心点をタッチする → ➡ → ◀/▶で加工する範囲を選ぶ → ➡ → ◀/▶で効果の強さを選ぶ → ➡ → ［実行］	

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

次のページにつづく↓

(パートカラー)	中心点を決め、周囲を白黒にして被写体を引き立たせる。 加工する中心点をタッチする → [→] → [◀]/[▶]で加工する範囲を選ぶ → [→] → [実行]	→
(魚眼)	中心点を決め、周囲を魚眼レンズ風にする。 加工する中心点をタッチする → [→] → [◀]/[▶]で効果の強さを選ぶ → [→] → [実行]	→
(クロスフィルター)	光源を中心に光を放射し、きらびやかな印象に仕上げる。 [◀]/[▶]で加工する長さを選ぶ → [→] → [◀]/[▶]で効果の強さを選ぶ → [→] → [実行]	→
(放射)	中心点を決め、静止画に動きを表現する。 加工する中心点をタッチする → [→] → [◀]/[▶]で加工する範囲を選ぶ → [→] → [実行]	→
(レトロ)	フォーカスをぼかして周辺の光量を落とし、古いカメラで撮影したような柔らかな画像に仕上げる。 [◀]/[▶]で加工する範囲を選ぶ → [→] → [◀]/[▶]で効果の強さを選ぶ → [→] → [実行]	→
(スマイル)	人物の顔を笑顔にする。加工できる顔を検出すると、その顔に枠がつく。 [◀]/[▶]で効果の強さを選ぶ → [→] → [実行] • 画像によっては、加工できない場合があります。	→

ご注意

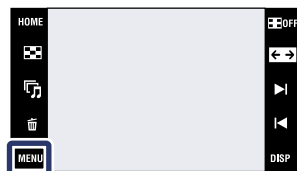
• 動画は加工できません。

保存前に加工具合を確認するには

• 特殊加工の選択中に[確認]をタッチすると、どのように加工されるかを確認できます((トリミング)、(赤目補正)時は除く)。

ペイント

静止画に描き込みをして、新しいファイルとして記録します。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ペイント) → OK
3 ペイントペン(付属)を使って描きこむ
4 または ボタンをタッチ → 保存する画像サイズを選ぶ → [実行]

	ボタン		できること
1		保存	内蔵メモリー、"メモリースティック デュオ"にVGAまたは3Mで保存する。
2		ペン	文字や絵を描く。
3		消しゴム	間違いを消す。
4		スタンプ	スタンプを押す。
5		太さ選択/スタンプ選択	ペンと消しゴムの太さ/スタンプの種類を選ぶ。
6		色選択	色を選ぶ。
7	×	終了	ペイントを終了する。
8		フレーム	フレームを付ける。 ◀/▶でお好みのフレームを選ぶ。
9		戻る	一つ前の状態に戻る。
10		オールクリア	ペイントを全部消す。

ご注意

- 動画にはペイントできません。

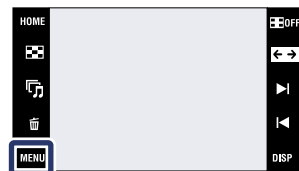
目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

マルチリサイズ

撮影した画像の画角やサイズを変え、新しいファイルとして記録します（リサイズ）。ハイビジョンテレビ鑑賞用に16:9の画角に変換、ブログ/Eメール添付用等にVGAサイズに変換できます。

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする

2 MENU → （マルチリサイズ）→ 好みのモード → OK

3 ▲/▼/◀/▶で切り抜きたい部分を指定する → ➡ → [実行]

（ハイビジョン対応テレビ）	4:3/3:2から16:9の画角に変換し、2Mで保存する。	
（ブログ/Eメール）	16:9/3:2から4:3の画角に変換し、VGAで保存する。	

ご注意

- 動画はマルチリサイズできません。
- VGAサイズの画像を （ハイビジョン対応テレビ）の画像サイズに変換することはできません。
- 画像を拡大してマルチリサイズすると、画像が劣化する場合があります。

削除

不要な画像を選んで削除できます。

ご注意

- 内蔵メモリー使用時はフォルダビューで表示されます。
- ビューモードが[お気に入り]のとき、削除はできません。

見ている画像を削除する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 削除したい画像を表示 → MENU → 🗑(削除)
→ 🗑(この画像) → OK → [実行]

何枚か選んで削除する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → 🗑(削除) → 🗑(画像選択) → OK
3 画像を選ぶ

1枚再生時

① ▶I/I◀で画像を選び、削除したい画像をタッチする。
② 手順①を繰り返す。

一覧表示時

① ▲/▼でページをめくって削除したい画像をタッチする。
② 他の画像も削除したいときは、手順①を繰り返す。

4 → → [実行]

ご注意

- ✔マークが付いた画像をもう一度タッチすると、✔マークは消えます。

日付内/イベント内/フォルダ内すべての画像を削除する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (日付ビュー)、(イベントビュー)または (フォルダビュー) → OK
3 ▲/▼で削除したい日付、イベントまたはフォルダを選ぶ
4 MENU → (削除) → (日付内全て)、(イベント内全て)または (フォルダ内全て) → OK → [実行]

プロテクト

撮影した画像を誤って消さないように保護（プロテクト）します。
登録された画像には⊶マークが表示されます。

ご注意

- 内蔵メモリー使用時はフォルダビューで表示されます。

見ている画像をプロテクトする

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする
2 プロテクトしたい画像を表示 → MENU → ⊶（プロテクト）→ ⊶（この画像）→ OK

何枚か選んでプロテクトする

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → ⊶（プロテクト）→ ⊶（画像選択）→ OK

3 画像を選ぶ

1枚再生時

① ▶I/I◀で画像を選び、プロテクトしたい画像をタッチする。
② 手順①を繰り返す。

一覧表示時

① ▲/▼でページをめくってプロテクトしたい画像をタッチする。
② 他の画像もプロテクトしたいときは、手順①を繰り返す。

4 ➡ → ［実行］

ご注意

- ✔マークが付いた画像をもう一度タッチすると、プロテクトが解除されます。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

日付内/イベント内/フォルダ内すべての画像をプロテクトする

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (日付ビュー)、(イベントビュー)または (フォルダビュー) → OK
3 ▲/▼でプロテクトしたい日付、イベントまたはフォルダを選ぶ
4 MENU → (プロテクト) → (日付内全て設定)、(イベント内全て設定)または(フォルダ内全て設定) → OK → [実行]

日付内/イベント内/フォルダ内すべての画像のプロテクトを解除する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (日付ビュー)、(イベントビュー)または (フォルダビュー) → OK
3 ▲/▼で解除したい日付、イベントまたはフォルダを選ぶ
4 MENU → (プロテクト) → (日付内全て解除)、(イベント内全て解除)または(フォルダ内全て解除) → OK → [実行]

お気に入り内すべての画像のプロテクトを設定/解除する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → ♡(お気に入り) → OK
3 プロテクトを設定/解除したいお気に入り番号を選ぶ
4 MENU → (プロテクト) → (お気に入り内全て設定)または (お気に入り内全て解除) → OK → [実行]

DPOF

DPOFとは「Digital Print Order Format」の略です。プリントしたい画像を"メモリースティック デュオ"上に指定することができます。
登録された画像にはDPOFマークが表示されます。

ご注意

- 動画と内蔵メモリー内の画像はプリント予約マークが付けられません。
- プリント予約マークは999枚まで付けられます。

見ている画像をプリント予約する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 プリント予約したい画像を表示 → MENU → DPOF → DPOF(この画像) → OK

何枚か選んでプリント予約する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → DPOF → DPOF(画像選択) → OK
3 画像を選ぶ

1枚再生時

① ▶I/I◀で画像を選び、プリント予約したい画像をタッチする。
② 手順①を繰り返す。

一覧表示時

① ▲/▼でページをめくってプリント予約したい画像をタッチする。
② 他の画像もプリント予約したいときは、手順①を繰り返す。

4 → → [実行]

ご注意

- ✓マークが付いた画像をもう一度タッチすると、プリント予約マークが解除されます。

日付内/イベント内/フォルダ内すべての画像をプリント予約する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (日付ビュー)、(イベントビュー)または (フォルダビュー) → OK
3 ▲/▼でプリント予約したい日付、イベントまたはフォルダを選ぶ
4 MENU → DPOF → (日付内全て設定)、(イベント内全て設定)または (フォルダ内全て設定) → OK → [実行]

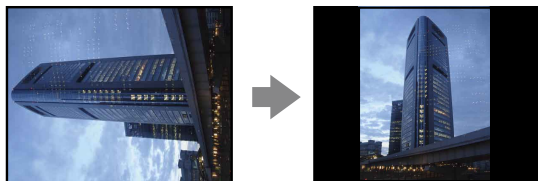
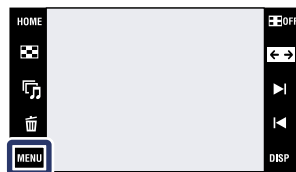
日付内/イベント内/フォルダ内すべての画像のプリント予約を解除する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → (日付ビュー)、(イベントビュー)または (フォルダビュー) → OK
3 ▲/▼で解除したい日付、イベントまたはフォルダを選ぶ
4 MENU → DPOF → (日付内全て解除)、(イベント内全て解除)または (フォルダ内全て解除) → OK → [実行]

お気に入り内すべての画像のプリント予約を設定/解除する

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (ビューモード) → ♡(お気に入り) → OK
3 プリント予約を設定/解除したいお気に入り番号を選ぶ
4 MENU → DPOF → (お気に入り内全て設定)または(お気に入り内全て解除) → OK → [実行]

回転

静止画を左右に回転します。横向きに表示されている画像を、縦に表示したいときに使います。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする
2 MENU → (回転) → OK
3 ↶/↷ →[実行]

ご注意

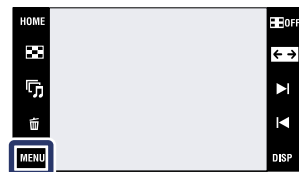
- 動画、プロテクトされている画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

音量設定

スライドショー、動画再生時の音量を調節します。

1 ▶(再生)ボタンを押して、再生モードにする

2 MENU → ◁(音量設定)→ OK

3 ◁-/◁+をタッチして調節 → [終了]

動画再生中、スライドショー中に調節するには

動画再生：◁VOLをタッチして音量調節画面を表示し◁-/◁+で調節します。[終了]をタッチすると、音量調節画面から戻ります。

スライドショー：画面をタッチして◁-/◁+で調節します。BACKをタッチすると、音量調節画面から戻ります。

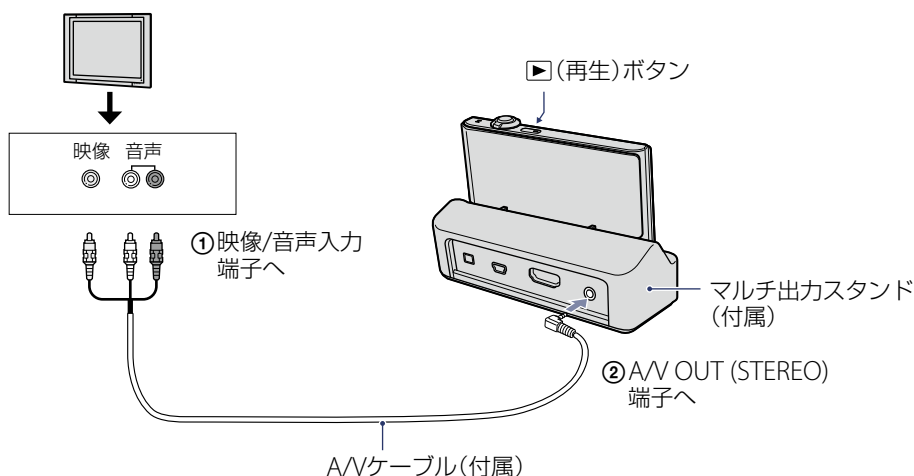
SD(標準)画質のテレビで見る (DSC-T900)

DSC-T90については、130ページをご覧ください。

本機とテレビを接続すると、撮影した画像をSD（標準）画質で見られます。
接続方法は、接続するテレビの種類によって異なります。[TVタイプ]（72ページ）をご覧ください。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 本機とテレビの電源を切る

2 本機をマルチ出力スタンド（付属）に取り付ける

3 マルチ出力スタンドとテレビをA/Vケーブル（付属）で接続する

4 テレビの電源を入れ、入力切り換えをする

5 ▶（再生）ボタンを押して、本機の電源を入れる

撮影した画像がテレビに表示される。本機の液晶画面の ▶I/I◀ をタッチして画像を選ぶ。

ご注意

- 1枚再生時、TV側にはアイコンが表示されません。
- 海外で見るときは、[ビデオ信号出力]の切り換えが必要な場合があります（71ページ）。
- 本機とテレビをA/Vケーブルを使って接続した状態で動画を撮影すると、テレビ側には撮影中の画像は表示されません。

HD(ハイビジョン)画質のテレビで見る(DSC-T900)

DSC-T90については、131ページをご覧ください。

本機とハイビジョンテレビをHDMIケーブル(別売)またはHD出力アダプターケーブル(別売)で接続すると、撮影した画像をHD(ハイビジョン)画質で見られます。接続方法は、接続するテレビの種類によって異なります。[TVタイプ](72ページ)をご覧ください。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 本機とテレビの電源を切る

2 本機とテレビをHDMIケーブル(別売)またはHD出力アダプターケーブル(別売)で接続する

ご注意

- 1枚再生時、TV側にはアイコンが表示されません。
- 画像サイズを[VGA]にして撮影した画像は高画質再生できません。
- 本機とテレビをHDMIケーブル(別売)、またはHD出力アダプターケーブル(別売)を使って接続した状態で動画を撮影すると、テレビ側には撮影中の画像は表示されません。
- 海外で見るときは[ビデオ信号出力]の切り換えが必要な場合があります(71ページ)。

16:9の画像サイズ(16:9 9M、16:9 2M)以外で撮影した画像をハイビジョンテレビ画面いっぱいに表示するには

- 再生メニューの[マルチリサイズ]を行うと、ハイビジョンテレビ鑑賞用に16:9の画角に変換し、保存できます。

ブラビア プレミアムフォトについて

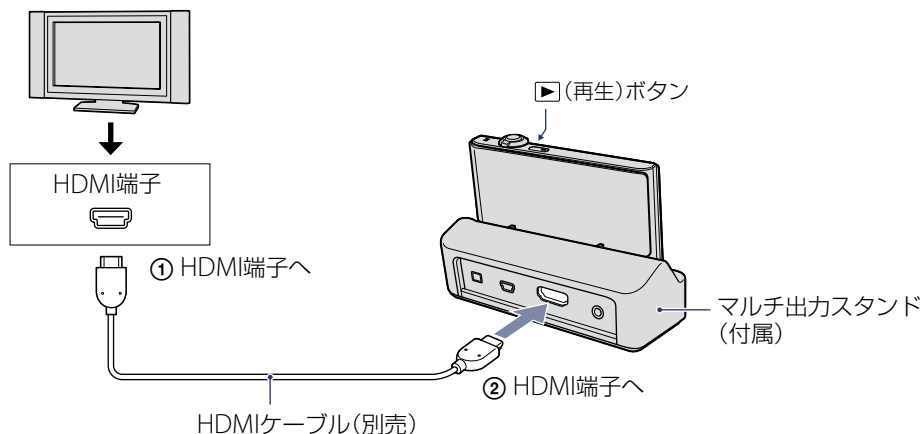
本機は“ブラビア プレミアムフォト”に対応しています。“ブラビア プレミアムフォト”に対応したソニー製テレビにHDMIケーブル(別売)、またはHD出力アダプターケーブル(別売)で接続すると、写真を今までになかった感動のFull HD高画質で快適にお楽しみいただけます。

- “ブラビア プレミアムフォト”とは、写真らしい高精細で微妙な質感や色あいの表現を可能にする機能です。
- 本機をビデオ-Aモードに対応したソニー製テレビにHDMIケーブルで接続すると、動画再生時も含めて、テレビが静止画に適した画質に自動的に設定されます。テレビ側の設定をビデオにすると動画に適した画質になります。
- 詳しくは、対応テレビの取扱説明書をご覧ください。

HDMIケーブル(別売)で接続して見る

本機とHDMI端子のあるハイビジョンテレビをHDMIケーブル(別売)で接続します。

1 本機をマルチ出力スタンド(付属)に取り付ける

2 マルチ出力スタンドとテレビをHDMIケーブル(別売)で接続する

3 テレビの電源を入れ、入力切り換えをする

4 ▶(再生)ボタンを押して、本機の電源を入れる

撮影した画像がテレビに表示される。本機の液晶画面の ▶/◀ をタッチして画像を選ぶ。

ご注意

- HOME → (設定) → [本体設定]で、[HDMI解像度]を[オート]または[1080i]にしてください。
- [操作音]は[シャッター]に固定されます。
- 本機と接続機器の出力端子同士での接続はしないでください。映像や音声が出力されません。また、故障の原因となります。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。

ブラビアリンク（リンクメニュー対応）を使う

ブラビアリンク（リンクメニュー対応）のテレビをご利用の場合、HDMIケーブル（別売）で接続すると、テレビに付属のリモコンで再生操作ができます。

1 HOME → （設定） → ［本体設定］ → ［HDMI機器制御］ → ［入］ → OK

2 本機をマルチ出力スタンド（付属）に取り付ける

3 マルチ出力スタンドとテレビをHDMIケーブル（別売）で接続する

4 テレビの電源を入れ、入力切り換えをする

5 ▶（再生）ボタンを押して、本機の電源を入れる

6 テレビのリモコンのリンクメニューボタンを押し、好みのモードを選ぶ

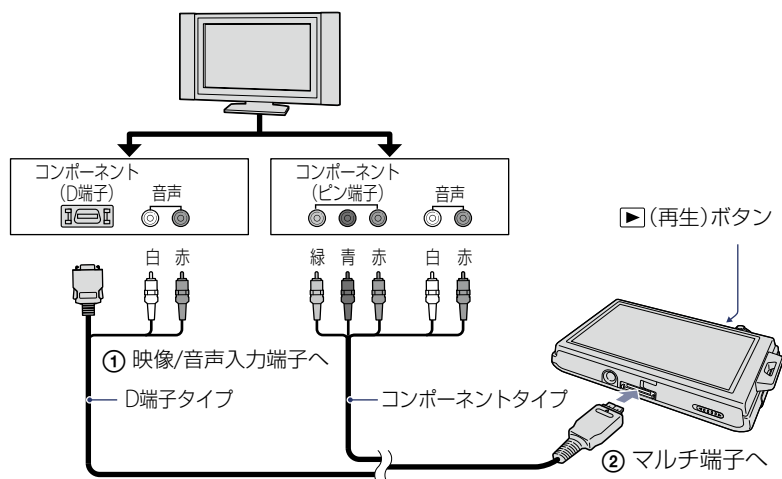
項目	説明
スライドショー	効果や音楽とともに、画像を自動的に連続再生する。
1枚再生	画像を1枚ずつ再生する。
一覧表示	同時に複数の画像を表示する。
ワイドズーム	1枚再生時、4:3または3:2の画角の静止画を16:9の画角で再生する。上下部分を少し切って表示する。
削除	画像を削除する。
再生ズーム	画像を拡大して再生する。
回転	静止画を左右に回転する。
画像絞込み	画像を絞り込んで表示する。
ビューモード	画像を表示する方法を選び、一覧表示する。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- リモコン操作中に本機の液晶画面をタッチすると、リモコン操作を中断します。
- 2008年以降に発売されたブラビアリンク対応テレビで使用できます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビをHDMI接続する際、テレビのリモコン操作でカメラが不要な動きをする場合は、HOME → （設定） → ［本体設定］で、［HDMI機器制御］を［切］にしてください。

HD出力アダプターケーブル(別売)で接続して見る

本機とハイビジョンテレビをHD出力アダプターケーブル(別売)で接続します。
「Type2c」対応のHD出力アダプターケーブルをお使いください。

1 本機とテレビをHD出力アダプターケーブル(別売)で接続する

2 テレビの電源を入れ、入力切り換えをする

3 ▶(再生)ボタンを押して、本機の電源を入れる

撮影した画像がテレビに表示される。本機の液晶画面の ▶I/I◀ をタッチして画像を選ぶ。

ご注意

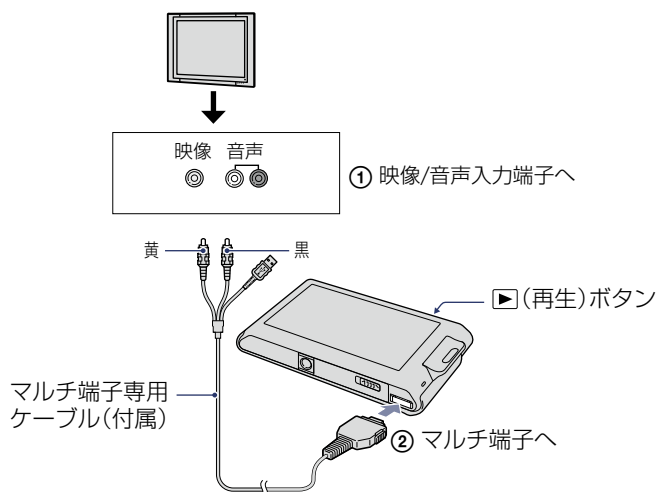
- あらかじめ、HOME → 🧰(設定) → [本体設定]で、[コンポーネント出力]を[HD(D3)]にしてください。
- お使いのハイビジョンテレビに合ったHD出力アダプターケーブルをお買い求めください。

SD(標準)画質のテレビで見る(DSC-T90)

DSC-T900については、125ページをご覧ください。

本機とテレビを接続すると、撮影した画像をSD(標準)画質で見られます。
接続方法は、接続するテレビの種類によって異なります。[TVタイプ](72ページ)をご覧ください。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 本機とテレビの電源を切る

2 本機とテレビをマルチ端子専用ケーブル(付属)で接続する

3 テレビの電源を入れ、入力切り換えをする

4 ▶(再生)ボタンを押して、本機の電源を入れる

撮影した画像がテレビに表示される。本機の液晶画面の ►/◄ をタッチして画像を選ぶ。

ご注意

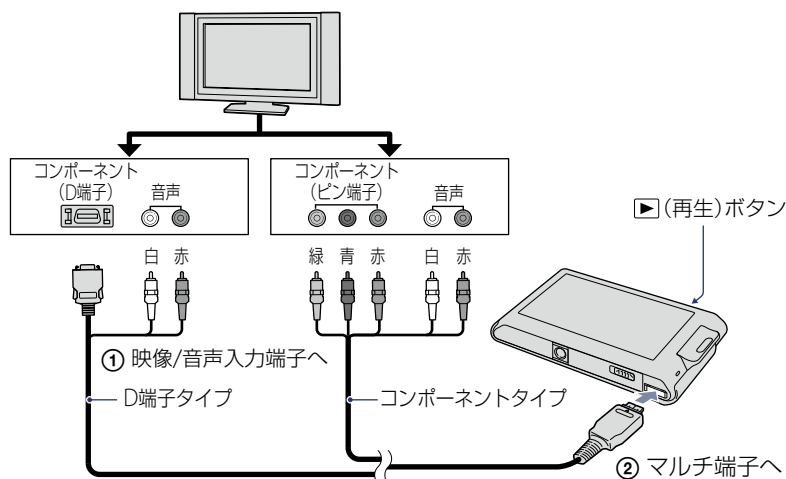
- テレビの音声入力端子がステレオタイプのときはマルチ端子専用ケーブルの音声プラグ(黒)を左音声端子(白)に接続してください。
- 1枚再生時、TV側にはアイコンが表示されません。
- 本機とテレビをマルチ端子専用ケーブル(付属)で接続した状態で動画を撮影すると、テレビ側には撮影中の画像は表示されません。
- 海外で見るときは、[ビデオ信号出力]の切り換えが必要な場合があります(71ページ)。

HD(ハイビジョン)画質のテレビで見る(DSC-T90)

DSC-T900については、126 ～ 129ページをご覧ください。

本機とハイビジョンテレビをHD出力アダプターケーブル(別売)で接続すると、撮影した画像をHD (ハイビジョン)画質で見られます。「Type1a」対応のHD出力アダプターケーブルをお使いください。
接続方法は、接続するテレビの種類によって異なります。[TVタイプ](72ページ)をご覧ください。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 本機とテレビの電源を切る

2 本機とテレビをHD出力アダプターケーブル(別売)で接続する

3 テレビの電源を入れ、入力切り換えをする

4 ▶(再生)ボタンを押して、本機の電源を入れる

撮影した画像がテレビに表示される。本機の液晶画面の ▶I/I◀ をタッチして画像を選ぶ。

ご注意

- あらかじめ、HOME → 🧰(設定) → [本体設定]で、[コンポーネント出力]を[HD(D3)]にしてください。
- 1枚再生時、TV側にはアイコンが表示されません。
- 画像サイズを[VGA]にして撮影した画像は高画質再生できません。
- 本機とテレビをHD出力アダプターケーブル(別売)を使って接続した状態で動画を撮影すると、テレビ側には撮影中の画像は表示されません。
- 海外で見るときは[ビデオ信号出力]の切り換えが必要な場合があります(71ページ)。
- お使いのハイビジョンテレビに合ったHD出力アダプターケーブルをお買い求めください。

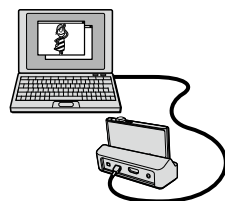
Windowsパソコンでできること

Macintoshについては、「Macintoshをお使いのときは」をご覧ください(141ページ)。

ソフトウェア(付属)をインストールする(134ページ)

- 下記のソフトウェアがインストールされます。
  - 「PMB」
  - 「Music Transfer」

本機とパソコンを接続する(136ページ)

- 「PMB」、「Music Transfer」を使って、楽しみの場を広げる。
  - パソコンに画像を取り込む
  - 本機に画像を書き出す
  - 本機の[イベントリスト]に好きなイベント名をつける
  - 画像を編集する
  - 撮影した画像の位置を地図上に表示する（インターネット接続環境が必要です）
  - データディスクを作成する（書き込み型CDドライブまたはDVDドライブが必要です）
  - 画像に日付を挿入して保存/印刷する
  - 画像をネットワークサービスにアップロードする（インターネット接続環境が必要です）
  - スライドショーのBGMを入れ換える

サイバーショットオフィシャルWEBサイトでは、パソコンとの接続方法やソフトウェアなどの最新サポート情報をご覧いただけます。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

パソコンの推奨環境

	OS（工場出荷時にインストールされていること）	その他
「PMB」、「Music Transfer」使用時	Microsoft Windows XP* SP3/ Windows Vista SP1	**CPU：**Intel Pentium Ⅲ 800 MHz以上 （HD動画再生・編集時は、Intel Pentium 4 2.8 GHz以上/Intel Pentium D 2.8 GHz以上/Intel Core Duo 1.66 GHz以上/Intel Core 2 Duo 1.20 GHz以上） **メモリ：** 512 MB以上（HD動画再生・編集時は1 GB以上） **インストール時に必要なハードディスク容量：** 約500 MB **ディスプレイ：** 1024×768ドット以上 **ビデオメモリ：** 32 MB以上（64 MB以上を推奨）
画像を取り込むとき	Microsoft Windows 2000 Professional SP4/ Windows XP* SP3/ Windows Vista SP1	**USB端子：** 標準装備

* 64bit版は除きます。

ご注意

- その他、各OSが求める動作環境を満たしていることが必要です。
- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB（USB2.0準拠）のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（high-speed転送）が行えます。
- パソコンと接続するときの本機のUSBモードには[オート]（お買い上げ時の設定）、[Mass Storage]、[PictBridge]、[PTP/MTP]の4種類があります。ここでは[オート]および[Mass Storage]での使いかたを説明します。[PictBridge]、[PTP/MTP]については、73ページをご覧ください。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

ソフトウェア(付属)をインストールする

下記の手順で、付属のソフトウェア(PMB、Music Transfer)をインストールします。

1 パソコンの電源を入れ、CD-ROM(付属)をCD-ROMドライブに入れる

インストール画面が表示される。

- インストール画面が表示されないときは、[コンピュータ](Windows XPでは[マイコンピュータ])→(SONYPICTUTIL)の順にダブルクリックする。
- 自動再生画面が表示される場合は、「Install.exeの実行」を選択し、画面の指示に従ってインストールする。

2 [インストール]をクリックする

「言語の選択」画面が表示される。

3 [日本語]を選び、[次へ]をクリックする

使用許諾画面が表示される。

4 使用許諾契約の内容をよく読み、同意される場合には○を◉に変え、[次へ]をクリックする

5 以降、画面の指示に従ってインストールを進める

- パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動する。
- 使用環境によって、DirectXが引き続きインストールされることがある。

6 インストール後、パソコンからCD-ROMを取り出す

デスクトップ上に PMB「PMB」、PMB ガイド「PMBガイド」のショートカットが表示される。ダブルクリックすると起動する。

ご注意

- コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

「PMB(Picture Motion Browser)」について

本機で撮影した静止画や動画をよりいっそうご活用いただくために、「PMB」が収録されています。ここでは、「PMB」の概要を紹介します。詳しいご利用方法については、「PMBガイド」をご覧ください。

「PMB」のご紹介

「PMB」をご利用になると、次のことができます。

- 本機で撮影した画像をパソコンに取り込み、表示できます。
- パソコンにある画像を"メモリースティック デュオ"に書き出し、表示できます。
- イベント名をつけて本機に書き出し、本機の[イベントリスト]で表示できます。
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧できます。
- 静止画の補正(赤目補正など)、顔検索、印刷、メール送信、撮影日時の変更ができます。
- 撮影した画像の位置情報を地図上に表示することができます(インターネット接続環境が必要です)。
- 画像に日付を挿入して保存/印刷できます。
- 書き込み型CDドライブまたはDVDドライブでデータディスクを作成できます。
- 画像をネットワークサービスにアップロードできます(インターネット接続環境が必要です)。

「PMBガイド」を起動する

1 **デスクトップ上の (PMBガイド)をダブルクリックする**

スタートメニューから起動するときは、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Sony Picture Utility] → [ヘルプ] → [PMBガイド]の順にクリックする。

「PMB」を起動/終了する

1 **デスクトップ上の (PMB)をダブルクリックする**

スタートメニューから起動するときは、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Sony Picture Utility] → [PMB]の順にクリックする。初回起動時にお知らせ通信機能の確認画面が表示されるので、[実行開始]を選択する。

- この機能は、ソフトウェアの更新などのお知らせがある場合に通知を行うもので、後で設定し直すこともできます。

2 **終了するには、画面右上の[ ]ボタンをクリックする**

画像をパソコンで楽しむ

パソコンとの接続方法や最新情報は、下記のホームページをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/
「PMB」の機能について、詳しくは「PMBガイド」をご覧ください。

本機とパソコンを接続する

内蔵メモリーの画像を取り込む場合は、手順1は不要です。

1 画像を記録した"メモリースティック デュオ"を本機に入れる

2 DSC-T900：
充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター（別売）でマルチ出力スタンド(付属)とコンセントをつなぎ、本機をマルチ出力スタンドに取り付ける

DSC-T90：
充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター（別売）とマルチ端子専用USB・AV・DC INケーブル(別売)で本機とコンセントを接続する

- 「Type1a」対応のUSB・AV・DC INケーブル(別売)をお使いください。

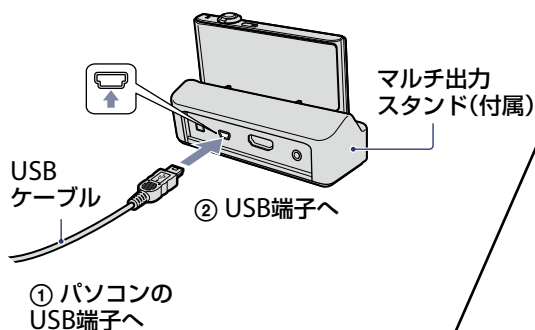
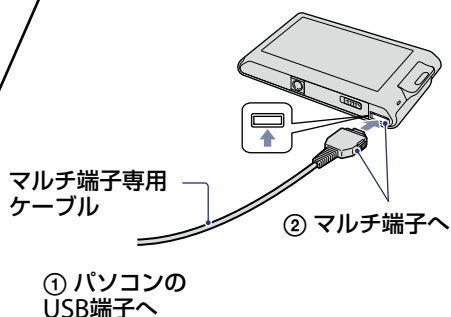
3 パソコンの電源を入れ、本機の▶(再生)ボタンを押す

4 本機とパソコンを接続する

本機の画面に「接続中」と表示される。

- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

次のページにつづく↓

ご注意

- 残量の少ないバッテリーを使用して画像を取り込む/書き出すと、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損するおそれがあります。
- 通信中は が表示されます。その間はパソコンの操作をしないでください。 が表示されたら操作できます。
- 画面に「Mass Storage」と表示されないときは、本機の[USB接続]を[Mass Storage]に設定してください（73ページ）。

画像をパソコンに取り込んで見る

1 本機とパソコンをUSB接続する

「PMB」の[画像の取り込み]画面が自動起動する。

- 自動再生ウィザードが起動したら終了する。

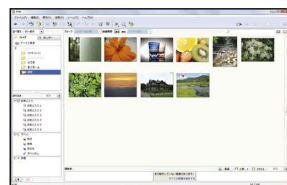
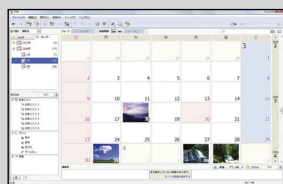
2 [取り込み開始]をクリックして、画像を取り込む

画像の取り込みが開始される。

- 初期設定では、「ピクチャ」（Windows XPでは「マイ ピクチャ」）に[イベントリスト]のイベント名を名前にしたフォルダが作成され、その中に画像が取り込まれる。

3 画像をパソコンで見る

取り込みが完了すると、「PMB」が起動して、取り込んだ画像のサムネイルが表示される。

- 初期設定では、「閲覧フォルダ」として「ピクチャ」（Windows XPでは「マイ ピクチャ」）フォルダが設定されている。

「PMB」で画像を見る

例：月表示画面

撮影日ごとにカレンダー上に整理して見るなどができます。「PMB」の機能について詳しくは「PMBガイド」をご覧ください。

「PMB」を使わずに画像をパソコンに取り込むには

手順1で自動再生ウィザードが起動したら、[フォルダを開いてファイルを表示] → [OK] → [DCIM]をクリックして、取り込みたい画像をパソコン内にコピーしてください。

画像を書き出して、本機で見る

パソコンにある画像を、"メモリースティック デュオ"に書き出して見ることができます。

ここでは、本機に入っている"メモリースティック デュオ"に書き出していない画像を自動で選択して書き出す方法を説明しています。

手動で画像を書き出すこともできます。詳しくは「PMBガイド」をご覧ください。

1 本機とパソコンをUSB接続する

- 自動再生ウィザードが起動したら終了する。

2 デスクトップ上の（PMB）をダブルクリックして、「PMB」を起動する

3 画面上部のをクリックする

かんたん書き出し画面が表示される。

4 [書き出し開始]をクリックする

- 書き出された画像を本機で見ると、液晶画面にマークが表示される。

ご注意

- 画像サイズによっては再生できない画像があります。
- パソコンで画像を加工したファイルや、他機で撮影した画像は本機での再生を保証しません。
- 動画はこの方法では書き出しできません。動画を本機に書き出す場合は、手動で行ってください。

パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1 ～ 3の手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブル（DSC-T900）またはマルチ端子専用ケーブル（DSC-T90）を抜く
- "メモリースティック デュオ"を取り出す
- 内蔵メモリーからのコピーを終了して、"メモリースティック デュオ"を本機に入れる
- 本機の電源を切る

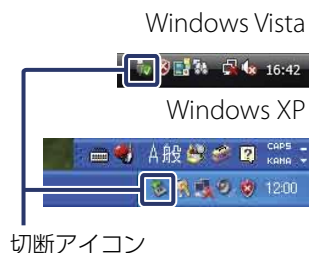
1 タスクトレイの切断アイコンをダブルクリックする

2 （USB大容量記憶装置デバイス）→[停止]をクリックする

3 取りはずすドライブを確認して、[OK]をクリックする

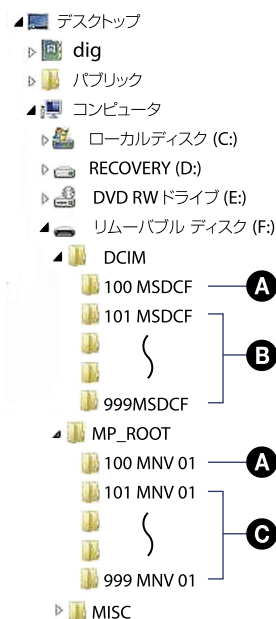
Windows Vista

Windows XP

切断アイコン

画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、“メモリースティック デュオ”または内蔵メモリー内のフォルダにまとめられています。

Ⓐ フォルダ作成機能のないカメラで撮影した画像ファイルのフォルダ。
Ⓑ 本機で撮影した静止画ファイルのフォルダ。
Ⓒ 本機で撮影した動画ファイルのフォルダ。

Windows Vistaの例

ご注意

- 「100MSDCF」、「100MNV01」フォルダには本機で画像を記録できません。再生のみ可能です。
- 「MISC」フォルダは、本機で記録/再生できません。
- 画像ファイル名は、下記のようになります。
  - 静止画ファイル：DSC0□□□□.JPG
  - 動画ファイル
    1280×720：M4H0□□□□.MP4
    VGA：M4V0□□□□.MP4
  - 動画撮影時に記録されるインデックス画像ファイル
    1280×720：M4H0□□□□.THM
    VGA：M4V0□□□□.THM

  □□□□は0001 ～ 9999の半角数字、動画ファイルとそのインデックス画像ファイル名の数字部分は同じです。

「Music Transfer」(付属)を使う

CD-ROM（付属)に収録されている「Music Transfer」を使って、出荷時から本機に用意されているBGMファイルをお好みの曲と入れ換えできます。また、BGMファイルの削除や追加を行うこともできます。

「Music Transfer」を使ってBGMの入れ換えをする

「Music Transfer」で取り込むことができる曲の種類は下記のとおりです。

- パソコンのハードディスクに保存されたMP3ファイル
- 音楽CDの曲
- 工場出荷時に本機に保存されている曲

1 HOME → (スライドショー) → [BGMツール] → OK → [BGMダウンロード] → OK

「PCと接続してください」というメッセージが表示される。

2 本機とパソコンをUSB接続する

3 「Music Transfer」を起動する

4 画面の操作手順に従って、BGMファイルの入れ換えを行う

出荷時に保存されていた曲を再び本機に戻すときは

手順4ですべて初期の曲に戻す。

本機の曲がすべてお買い上げ時に設定されていた曲に戻り、[スライドショー]の[BGM]は[消音]になります。

- [設定リセット](64ページ)をしてもお買い上げ時のBGM設定に戻すことができますが、同時に他の設定もお買い上げ時の設定に戻ります。
- 「Music Transfer」の詳しい使いかたについては、「Music Transfer」のヘルプをご覧ください。

Macintoshをお使いのときは

Macintoshに画像を取り込むことができます。「PMB」は、Macintoshには対応していません。画像を"メモリースティック デュオ"に書き出した場合はフォルダビューでご覧ください(53ページ)。

パソコンの推奨環境

	OS（工場出荷時にインストールされていること）	その他
画像を取り込むとき	Mac OS 9.1/9.2/Mac OS X（v10.1 ～ v10.5）	**USB端子:** 標準装備
「Music Transfer」使用時	Mac OS X（v10.3 ～ v10.5）	**メモリ：**64 MB以上（128 MB以上を推奨） **インストール時に必要なハードディスク容量：**約50 MB

ご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB（USB2.0準拠）のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（high-speed転送）ができます。
- パソコンと接続するときの本機のUSBモードには[オート]（お買い上げ時の設定）、[Mass Storage]、[PictBridge]、[PTP/MTP]の4種類があります。ここでは[オート]および[Mass Storage]での使いかたを説明します。[PictBridge]、[PTP/MTP]については、73ページをご覧ください。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

その他のサポート情報や、製品に関するお問い合わせは、こちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

画像を取り込んで見る

内蔵メモリーの画像を取り込む場合は、手順1は不要です。

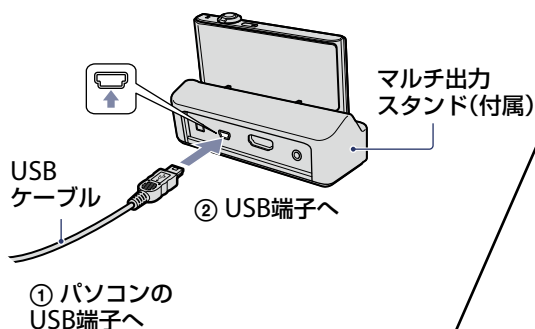
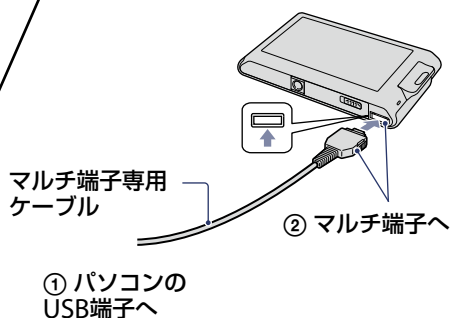
1 画像を記録した"メモリースティック デュオ"を本機に入れる

2 DSC-T900：
充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター（別売）でマルチ出力スタンド（付属）とコンセントをつなぎ、本機をマルチ出力スタンドに取り付ける

DSC-T90：
充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター（別売）とマルチ端子専用USB・AV・DC INケーブル（別売）で本機とコンセントを接続する

- 「Type1a」対応のUSB・AV・DC INケーブル（別売）をお使いください。

3 Macintoshの電源を入れ、本機の▶（再生）ボタンを押す

4 本機とMacintoshを接続する

5 [デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン] → [DCIM] → [取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリックする

6 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップする

ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

- 画像ファイルの保存先とファイル名については、139ページをご覧ください。

7 [ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックする

画像が表示される。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、あらかじめ"メモリースティック デュオ"またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されます。

- USBケーブル（DSC-T900）またはマルチ端子専用ケーブル（DSC-T90）を抜く
- "メモリースティック デュオ"を取り出す
- "メモリースティック デュオ"を本機に入れる
- 本機の電源を切る

「Music Transfer」を使ってBGMの入れ換えをする

CD-ROM（付属）に収録されている「Music Transfer」を使って、出荷時から本機に用意されているBGMファイルをお好みの曲と入れ換えることができます。また、BGMファイルの削除や追加を行うこともできます。

「Music Transfer」で取り込むことができる曲の種類は下記のとおりです。

- パソコンのハードディスクに保存されたMP3ファイル
- 音楽CDの曲
- 工場出荷時に本機に保存されている曲

1 Macintoshに電源が入った状態で、CD-ROM（付属）をディスクドライブに入れる

2 (SONYPICTUTIL)をダブルクリックする

3 [Mac]フォルダの中の[MusicTransfer.pkg]をダブルクリックする

インストールが始まる。

4 HOME → (スライドショー) → [BGMツール] → OK → [BGMダウンロード] → OK

「PCと接続してください」というメッセージが表示される。

5 本機とMacintoshをUSB接続する

6 「Music Transfer」を起動する

7 画面の操作手順に従って、BGMファイルの入れ換えを行う

ご注意

- インストール前に使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。
- インストールするにはコンピューターの管理者権限が必要です。

次のページにつづく↓

出荷時に保存されていた曲を再び本機に戻すときは

手順7ですべて初期の曲に戻す。

本機の曲がすべてお買い上げ時に設定されていた曲に戻り、[スライドショー]の[BGM]は[消音]になります。

- [設定リセット](64ページ)をしてもお買い上げ時のBGM設定に戻すことができますが、同時にほかの設定もお買い上げ時の設定に戻ります。
- 「Music Transfer」の詳しい使いかたについては、「Music Transfer」のヘルプをご覧ください。

「サイバーショットステップアップガイド」を見る

本機をよりよく使うために、別売りアクセサリーの紹介をしています。

Windowsで見る

「サイバーショットステップアップガイド」は、「サイバーショットハンドブック」をインストールすると同時にインストールされます。

1 デスクトップ上の（ステップアップガイド）をダブルクリックする
スタートメニューから起動するときは、[スタート]→[すべてのプログラム]→[Sony Picture Utility]→[ステップアップガイド]の順にクリックする。

Macintoshで見る

1 [stepupguide]フォルダ内の[stepupguide]フォルダをパソコンにコピーする
2 [stepupguide]→[language]→[JP]の順に選び、[JP]フォルダ内のすべてのファイルを、手順1でパソコンにコピーした[stepupguide]フォルダ内の[img]フォルダに上書きコピーする
3 コピーが完了したら、[stepupguide]フォルダ内の"stepupguide.hqx"をダブルクリックして解凍し、"stepupguide"をダブルクリックする

ご注意

• お使いのMacintoshにHQXファイルの解凍ソフトが インストールされていない場合は、Stuffit Expanderをインストールしてください。

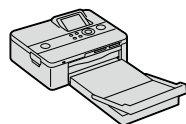
静止画をプリントする

静止画をプリントするには、下記の方法があります。

ダイレクトプリントする（PictBridge対応プリンター使用）（147ページ）

PictBridge対応プリンターに本機を直接接続してプリントします。

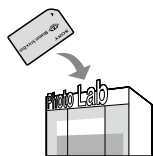
ダイレクトプリントする（"メモリースティック"対応プリンター使用）

"メモリースティック"対応プリンターでプリントします。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

パソコンを使ってプリントする

CD-ROM収録のソフトウェア「PMB」を使って画像をパソコンに取り込んでから、プリントします。日付を入れてプリントできます。詳しくは、「PMBガイド」をご覧ください。

お店でプリントする（149ページ）

プリントサービス店に、画像を撮影した"メモリースティック デュオ"を持参します。プリントしたい画像にあらかじめ**DPOF**（プリント予約）マークを付けておくこともできます。

ご注意

- [16:9]で撮影した画像は、プリント時に両端が切れる場合があります。

ダイレクトプリントする（PictBridge対応プリンター使用）

PictBridge対応プリンターなら、本機で撮影した画像をパソコンなしでプリントできます。

PictBridge「PictBridge」は、「ピクトブリッジ」と読みます。カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格のことです。

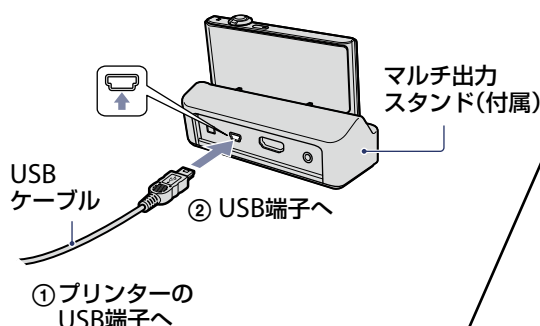
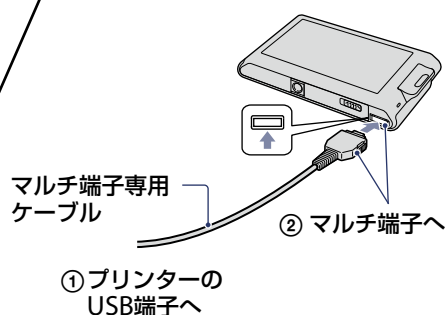
ご注意

- 動画はプリントできません。

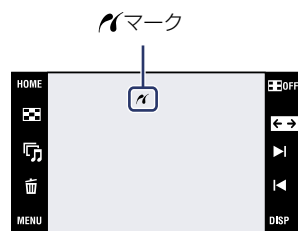
本機を準備する

本機とプリンターをUSB接続するために、本機を設定します。

1 充分に充電したバッテリーを本機に入れる

2 本機とプリンターを接続する

3 プリンターの電源を入れ、本機の ▶（再生）ボタンを押す

接続が完了すると、画面にマークが表示される。

マークが点滅したときは、プリンターからのエラー通知です。接続しているプリンターを確認してください。

ご注意

- プリンターに接続できなかった場合、あらかじめHOMEの［本体設定］で［USB接続］を［PictBridge］に設定し、はじめから操作してください。

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

プリントする

目次
やりたいことから探す
HOME/MENUから探す
索引

1 MENU → (印刷) → 希望の項目 → OK

見ている画像を印刷する

1枚再生時、希望の項目で[この画像]を選ぶ。

何枚か選んで印刷する

希望の項目で[画像選択]を選ぶ。

1枚再生時

① ▶/◀で画像を選び、印刷したい画像をタッチする。

② 手順①を繰り返す。

③ → [実行]

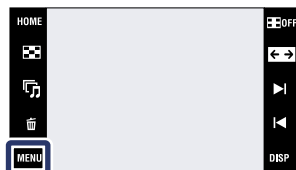
一覧表示時

① ▲/▼でページをめくって印刷したい画像をタッチする。

② 他の画像も印刷したいときは、手順①を繰り返す。

③ → [実行]

日付内/イベント内/お気に入り内/フォルダ内すべての画像を印刷する

一覧表示時、希望の項目で[日付内全て]、[イベント内全て]、[お気に入り内全て]、[フォルダ内全て]を選ぶ。[実行]をタッチする。

2 **希望の設定項目をタッチして印刷設定する**

[枚数]

指定した画像のプリント枚数を選ぶ。

- インデックスプリント時、画像の枚数によっては、1枚の用紙に指定枚数分の画像が収まらないことがあります。

[レイアウト]

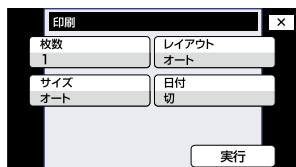
1枚のプリント用紙に何枚の画像を並べるかを選ぶ。

[サイズ]

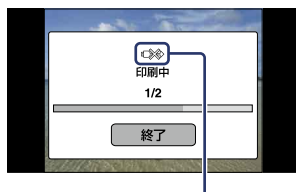
用紙サイズを選ぶ。

[日付]

日時を挿入するときは[年月日]または[日時分]を選ぶ。

- [日付]で[年月日]を選んだ場合、79ページで選んだ表示順の年月日が挿入されます。ただし、プリンターによっては対応していない場合があります。

3 **[実行]をタッチする**

画像がプリントされる。

- (PictBridge接続中)マークが画面に表示されているときは、USBケーブル(DSC-T900)または、マルチ端子専用ケーブル(DSC-T90)を抜かないでください。

(PictBridge接続中)マーク

お店でプリントする

画像を撮影した"メモリースティック デュオ"をプリントサービス店に持参します。
DPOF規格対応のお店でプリントするときは、再生メニューで**DPOF**（プリント予約）マークを付けて、プリントしたい画像を本機であらかじめ予約できます。

ご注意

- 内蔵メモリー内の画像は、プリントサービス店で直接カメラからプリントすることはできません。"メモリースティック デュオ"にコピーして、プリントサービス店にお持ちください（60ページ）。
- 対応している"メモリースティック デュオ"の種類はお店にお問い合わせください。
- "メモリースティック デュオ"に対応していないプリントサービス店の場合は、CD-Rなどに画像データをコピーして持参してください。
- "メモリースティック デュオ"アダプター（別売）が必要な場合があります。お店にお問い合わせください。
- プリントサービス店をご利用前に、必ずデータのバックアップを取ってください。
- プリント枚数の設定はできません。
- 日付を写真に挿入したいときは、お店にご相談ください。

故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

❶ **151 ～ 160ページの項目をチェックし、本機を点検する。**

画面に「C/E：□□：□□」のような表示が出たときは、
161ページをご覧ください。

❷ **バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。**

❸ **設定リセットをする（64ページ）。**

❹ **サイバーショットオフィシャルWEBサイトなどで確認する。**

http://www.sony.co.jp/cyber-shot

サイバーショットの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。
(English manual download service is available.)

サイバーショットの最新サポート情報
（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など）
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

“メモリースティック”対応表
使用可能な“メモリースティック”を確認できます。
また、その他の“メモリースティック”に関する情報も確認できます。
http://www.sony.co.jp/mstaiou/

付属ソフトウェアのサポート情報
http://www.sony.co.jp/support-disoft/

❺ **ソニーの相談窓口に電話で問い合わせる。**

- 内蔵メモリーやBGM機能を搭載した機種の修理において、不具合症状の発生/改善の確認のために必要最小限の範囲でデータを確認させていただく場合があります。ただし、それらのデータをソニー側で複製/保存することはありません。 あらかじめご了承ください。
- 指定宅配便での修理品のお引取り、修理後の製品のお届けまでを一括して行います。WEBサイトをご覧ください。
  http://www.sony.co.jp/di-repair/

以下の項目をクリックすると、項目別の症状と原因/処置に移動します。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの向きを確認し、取りはずしつまみがロックするまで挿入してください。

電源が入らない。

- 本機にバッテリーを取り付けた後、電源が入るまでに時間がかかることがあります。
- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください。
- バッテリーの寿命です（169ページ）。新しいバッテリーと交換してください。
- 推奨バッテリーをお使いください。

電源が切れる。

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために、自動的に電源が切れることがあります。この場合は、電源が切れる前に画面にメッセージが表示されます。
- 操作しない状態が3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。
- バッテリーの寿命です（169ページ）。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーの残量表示が正しくない。

- 以下の場合はバッテリー消費が早くなり、残量は表示よりも少なくなります。
  – 温度が極端に高い、または低いところで使用している。
  – フラッシュ、ズームを多用している。
  – 電源の入・切を繰り返している。
  – DISP（画面表示）設定で明るさが[明]になっている。
- 残量表示と実際の残量にズレが生じています。バッテリーを一度使い切ってから充電すると正しい表示に戻ります。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください。
- バッテリーの寿命です（169ページ）。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーを本体に入れた状態で充電できない。

- ACアダプター（別売）を使っての充電はできません。バッテリーチャージャーを使って充電してください。

バッテリー充電中、CHARGEランプが点滅する。

- バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを確実に取り付ける。
- 充電に適した温度範囲(10 ℃~ 30 ℃)で充電してください。
- 詳しくは、169ページをご覧ください。

静止画/動画を撮る

撮影できない。

- 内蔵メモリーまたは"メモリースティック デュオ"の空き容量を確認してください。いっぱいのときは、下記のいずれかを行ってください。
  - 不要な画像を削除してください(46、117ページ)。
  - "メモリースティック デュオ"を交換してください。
- フラッシュ充電中は撮影できません。
- モードスイッチを切り換える(DSC-T900のみ)。
- 静止画撮影時は、撮影モードを🎞(動画撮影)以外にしてください(DSC-T90のみ)。
- 動画撮影時は、撮影モードを🎞(動画撮影)にしてください(DSC-T90のみ)。
- 画像サイズが[1280×720]の動画は"メモリースティック PRO デュオ"のみに記録できます。"メモリースティック PRO デュオ"以外の記録メディアをお使いの場合は、動画の画像サイズを[VGA]に設定してください。
- スマイルシャッターのデモモードになっています。デモモードを[切]にしてください。

スマイルシャッター撮影ができない。

- 笑顔が検出されない場合は撮影されません。
- デモモードが[入]になっています。[切]にしてください(67ページ)。

画面に被写体が写らない。

- 再生モードになっています。▶(再生)ボタンを押して撮影モードにしてください。

手ブレ補正が効かない。

- 液晶画面に が表示されていると、手ブレ補正は効いていません。
- 暗所では、手ブレ補正が効きにくくなります。
- シャッターを半押ししてから撮影してください。

撮影に時間がかかる。

- 暗い場所での撮影時など、シャッタースピードが一定速度よりも遅くなると、自動的に画像ノイズを低減します。この機能をNR(ノイズリダクション)スローシャッターといい、撮影に時間がかかります。
- 目つぶり軽減機能が働いています。目つぶり軽減の[オート]を[切]にしてください(99ページ)。

ピント(フォーカス)が合わない。

- 被写体が近すぎるためです。最短撮影距離(レンズ先端からW側約8 cm、T側約50 cm)より離して撮影してください。または(拡大鏡入)モードにし、W側約1 ~ 20 cmの距離で撮影してください。
- 静止画撮影時、シーンセレクションの(夜景)、(風景)、(打ち上げ花火)が選ばれていると、ピントが合わない場合があります。
- セミマニュアルになっているときは、オートフォーカスに戻してください(34ページ)。

ズームできない。

- (拡大鏡入)モード時、光学ズームは使えません。
- 画像サイズによってはスマートズームができません(76ページ)。
- 以下のときデジタルズームは使えません。
  – 動画撮影時
  – スマイルシャッターモード時

顔検出機能が選べない。

- フォーカスを[マルチAF]、測光モードを[マルチ]以外に設定しているときは、[顔検出]は選べません。
- (拡大鏡入)モード時、[顔検出]は選べません。

フラッシュ撮影ができない。

- 以下のときは、フラッシュ撮影できません。
  – 連写またはブラケット撮影しているとき(84ページ)
  – シーンセレクションの(高感度)、(夜景)、(打ち上げ花火)が選ばれているとき
  – 動画撮影時
- (拡大鏡入)、またはシーンセレクションの(風景)、(料理)、(ビーチ)、(スノー)、(水中)、(高速シャッター)が選ばれているときは、(強制発光)にしてください(33ページ)。

フラッシュ撮影した画像に、ぼんやりとした白く丸い点が写っている。

- 空気中の粒子(ほこり、花粉など)がフラッシュの強い光に反射して写りこんだためです。故障ではありません。

近接撮影(マクロ撮影/拡大鏡撮影)ができない。

- シーンセレクションの(風景)、(夜景)、(打ち上げ花火)が選ばれているときは、近接撮影できません。
- (拡大鏡入)モードが選ばれている場合の撮影範囲は、約1 cm ~ 20 cmです。
- (おまかせオート撮影)時、[マクロ入]は選べません。
- 動画撮影時、スマイルシャッター中は、マクロは[オート]に固定されます。

マクロ撮影が解除できない

- マクロ解除の機能はありません。(オート)の場合は、そのまま遠景の撮影が可能です。

撮影日時が液晶画面に表示されない。

- 撮影時には、日付は表示されません。再生時のみ表示されます。

撮影日時を画像に挿入できない。

- 本機には画像に日付を挿入できる機能はありません。「PMB」を使用すると、日付を入れて保存/印刷することができます(135ページ)。

シャッターを半押しするとF値、シャッタースピードが点滅する。

- 露出が合っていません。明るさ(EV補正)を設定してください(38、86ページ)。

液晶画面が明るすぎる/暗すぎる。

- 液晶画面の明るさを調整してください(18ページ)。

画像が暗い。

- 逆光になっています。測光モード選択（36、92ページ）または明るさ（EV補正）（38、86ページ）を設定してください。

画像が明るい。

- 明るさ（EV補正）を設定してください（38、86ページ）。

画像の色が正しくない。

- ［カラーモード］を［標準］にしてください（102ページ）。
- ［色合い（ホワイトバランス）］を調整してください。（88ページ）。

明るい被写体を写すと、白や黒、赤、紫などの縦線が出たり画面全体が赤みがかったような画像になる。

- スミアという現象です。故障ではありません。

暗い場所で画面を見ると画像にノイズが目立つ。

- 暗い場所でも確認できるように、画面を一時的に明るくする機能が働いています。撮影される画像には影響ありません。

被写体の目が赤く写る。

- ［赤目軽減］を［オート］または［入］にしてください（100ページ）。
- 被写体に近づいてフラッシュ撮影距離内で撮影してください。
- 室内を明るくして撮影してください。
- 再生メニューの［加工］ →［赤目補正］を行う、または「PMB」で修正してください。

画面に点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません。

連写できない。

- スマイルシャッター中は連写できません。
- 内蔵メモリーまたは"メモリースティック デュオ"の容量がいっぱいです。不要な画像を削除してください（46、117ページ）。
- バッテリーの残量が足りません。充電されたバッテリーを取り付けてください。

同じ画像が数枚撮影される。

- ［撮影モード］が［連写］になっています（84ページ）。または［おまかせシーン認識］が［アドバンス］になっています（93ページ）。

画像を見る

再生できない。

- ▶(再生)ボタンを押してください。
- パソコンでフォルダ/ファイルの名前を変更したためです。
- パソコンで画像を加工したファイルや他機で撮影した画像は、本機での再生は保証いたしません。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください(138ページ)。
- 他機で撮影した"メモリースティック デュオ"では再生できない場合があります。フォルダビューで再生してください(53ページ)。
- パソコン内の画像を「PMB」を使わずに"メモリースティック デュオ"にコピーしたためです。フォルダビューで再生してください(53ページ)。

撮影日時が表示されない。

- [表示設定]が[シンプル]または[画像のみ]になっています。DISPをタッチして[ノーマル]にしてください(17ページ)。

表示直後に再生画像が粗い。

- 画像処理のため、表示直後は画像が粗くなります。故障ではありません。

画面の左右が黒く表示される。

- [縦横判別]が[入]になっています(77ページ)。

ボタンやアイコンが消えてしまった。

- 撮影時、画面右上をタッチしていると、ボタンやアイコンが一時的に消えます。指が離れると再び表示されます。
- [表示設定]が[画像のみ]になっています。DISPをタッチして[ノーマル]または[シンプル]に設定してください(17ページ)。
- 再生時は画面の中央をタッチしてDISPを表示してから[ノーマル]または[シンプル]に設定してください。

スライドショー時に音楽(BGM)が流れない。

- 「Music Transfer」を使って本機に音楽を入れてください(140ページ)。
- 音量設定とスライドショーの設定を確認してください(43、124ページ)。

テレビに画像が出ない。

- [ビデオ信号出力]が[NTSC]になっているか確認してください(71ページ)。
- 接続が正しいか確認してください(125、130ページ)。
- USBケーブル(DSC-T900)または、マルチ端子専用ケーブル(DSC-T90)がUSB端子に接続されている場合は、はずしてください(138、143ページ)。
- 本機とテレビをマルチ端子専用ケーブル(付属)(DSC-T90のみ)または、HDMIケーブル(別売)(DSC-T900のみ)、HD出力アダプターケーブル(別売)を使って接続した状態で動画を撮影すると、テレビ側には撮影中の画像は表示されません。

画像を削除する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください(119ページ)。

パソコン

パソコンとの接続方法や最新サポート情報は下記のホームページをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認してください(133、141ページ)。

“メモリースティック”スロット付きパソコンで“メモリースティック PRO デュオ”が認識されない。

- パソコンおよびリーダーライターが“メモリースティック PRO デュオ”に対応しているかご確認ください。ソニーバイオをお使いの場合、バイオのサポートページをご覧いただきますと、対応の有無が確認できます。ソニー製以外のパソコンおよびリーダーライターをお使いの場合は、各メーカーにお問い合わせください。
- “メモリースティック PRO デュオ”非対応の場合は、本機をパソコンにつないでください(136、142ページ)。パソコンが“メモリースティック PRO デュオ”を認識します。

本機がパソコンに認識されない。

- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください。またはACアダプター(別売)を使用してください。
- USB接続を[オート]または[Mass Storage]にしてください(73ページ)。
- 接続には、USBケーブル(DSC-T900)または、マルチ端子専用ケーブル(DSC-T90)を使ってください。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブル(DSC-T900)または、マルチ端子専用ケーブル(DSC-T90)を抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください。

画像を取り込めない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(136ページ)。
- パソコンでフォーマットした“メモリースティック デュオ”で撮影した場合、画像をパソコンへ取り込めないことがあります。本機でフォーマットした“メモリースティック デュオ”で撮影してください(56ページ)。

USB接続をしたときに「PMB」が自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続してください。

画像を再生できない。

- 「PMB」をお使いの場合は、「PMBガイド」をご覧ください（135ページ）。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生すると画像や音が途切れる。

- 内蔵メモリーまたは"メモリースティック デュオ"から直接再生すると、画像や音が途切れます。パソコンのハードディスクに動画をコピーして、ハードディスクのファイルを再生してください（136ページ）。

画像をプリントできない。

- プリンターの取扱説明書をご覧ください。

パソコンから書き出した画像ファイルが本機で見られない。

- 101MSDCFなど本機で認識するフォルダに書き出してください（139ページ）。
- 「PMB」を使わずに画像を本機に書き出した場合、情報が正しく更新されず、画像がブルーになるなど正しく表示されない場合があります。これらは故障ではありません。
- 画像がブルーで表示された場合はフォルダビューでご覧になるか、本機で削除してください。

"メモリースティック デュオ"

本機に入らない。

- 正しい向きで入れてください。

誤ってフォーマットしてしまった。

- "メモリースティック デュオ"内のデータはすべて消去され、元に戻せません。

内蔵メモリー

内蔵メモリー内のデータが再生/記録できない。

- 本機に"メモリースティック デュオ"が入っています。取りはずしてください。

内蔵メモリー内のデータを"メモリースティック デュオ"にコピーできない。

- "メモリースティック デュオ"の空き容量がありません。充分な空き容量のある"メモリースティック デュオ"にコピーしてください。

"メモリースティック デュオ"やパソコンの画像を内蔵メモリーにコピーできない。

- "メモリースティック デュオ"やパソコンの画像は内蔵メモリーにコピーできません。

プリントする

次の「PictBridge対応プリンター」も合わせてご覧ください。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に画像が[16:9]のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなし印刷機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れて印刷できない。

- 「PMB」を使って印刷すると日付挿入ができます（135ページ）。
- 本機には画像に日付を挿入できる機能はありませんが、画像には日付情報が記録されています。お使いのプリンターやソフトウェアがExif情報を認識できれば日付を入れて印刷できます。対応の有無は、各メーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れて印刷できます。

PictBridge対応プリンター

プリンターと接続できない。

- 本機は、PictBridge非対応プリンターには直接接続できません。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターの電源が入り、接続可能な状態になっていることを確認してください。
- [USB接続]を[PictBridge]にしてください（73ページ）。
- USBケーブル（DSC-T900）または、マルチ端子専用ケーブル（DSC-T90）を抜いて、接続し直してください。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

プリントできない。

- 本機とプリンターがUSBケーブル（DSC-T900）または、マルチ端子専用ケーブル（DSC-T90）で正しく接続されているか確認してください。
- プリンターの電源が入っているか確認してください。詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリント中に[終了]を選ぶと、再びプリントできない場合があります。USBケーブル（DSC-T900）または、マルチ端子専用ケーブル（DSC-T90）を抜いて、接続し直してください。それでも復帰しないときは、USBケーブル（DSC-T900）または、マルチ端子専用ケーブル（DSC-T90）をもう一度抜き、プリンターの電源を入れ直してから接続し直してください。
- 動画はプリントできません。
- 他機で撮影した静止画、またはパソコンで加工した画像はプリントできない場合があります。

プリントが中断される。

- （PictBridge接続中）マークが消える前に、USBケーブル（DSC-T900）または、マルチ端子専用ケーブル（DSC-T90）を抜いていないか確認してください。

日付挿入/インデックスプリントができない。

- プリンターが日付挿入/インデックスプリントに対応していません。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- プリンターによっては、インデックスプリントでは日付が挿入されない場合があります。プリンターのメーカーにお問い合わせください。

日付部分に「---- -- --」などが印刷される。

- 画像ファイルに印刷可能な撮影日時情報が入っていません。[日付]を[切]にしてプリントしてください(148ページ)。

プリントしたい用紙サイズが選べない。

- プリンターがプリントしたい用紙サイズに対応しているか、プリンターのメーカーにお問い合わせください。

プリンターの用紙サイズどおりに印刷できない。

- 本機とプリンターを接続したあとにプリンターの用紙を別のサイズの用紙と取り換えた場合は、一度USBケーブル(DSC-T900)または、マルチ端子専用ケーブル(DSC-T90)を抜いてプリンターを接続し直してください。
- 本機での印刷設定と、プリンターの設定が合っていません。本機の用紙サイズ設定を変更する(148ページ)か、プリンターの用紙設定を変更してください。

印刷を中止すると、他の操作ができない。

- プリンターが印刷中止の処理をしているので、しばらくお待ちください。プリンターによっては時間がかかることがあります。

タッチパネル

タッチパネルのボタンが操作できない/正しく操作できない。

- 画面を調節([キャリブレーション])してください(65ページ)。
- [ハウジング]が[入]になっています(66ページ)。

ペイントペンの先をあてた位置がずれて表示される。

- 画面を調節([キャリブレーション])してください(65ページ)。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください。

長時間使用すると、本機が熱くなる。

- 故障ではありません。

電源を入れると、時刻設定画面が表示される。

- 日付/時刻を設定し直してください(79ページ)。
- 充電式バックアップ電池が放電しています。充電したバッテリーを入れ、電源を切ったまま24時間以上放置してください。

日付/時刻を変更したい。

- HOME → (設定)→[時計設定]で設定し直す。

自己診断表示と警告表示

自己診断表示

画面にアルファベットで始まる表示が出たら、本機の自己診断機能が働いています。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。
下記の対処を2、3度繰り返しても正常な状態に戻らないときは、修理が必要な場合があるのでソニーの相談窓口にご相談ください。

C:32:□□

- ハードウェアの異常です。電源を入れ直してください。

C:13:□□

- データが読めない/書けない状態です。電源を入れ直すか"メモリースティック デュオ"を数回抜き差ししてください。
- 内蔵メモリーがフォーマットエラーのままです。または、フォーマットしていない"メモリースティック デュオ"が入っています。フォーマットしてください（56ページ）。
- 本機では使えない"メモリースティック デュオ"が入っています。またはデータが壊れています。"メモリースティック デュオ"を交換してください。

E:61:□□

E:62:□□

E:91:□□

- 何らかの異常が起きています。設定リセット（64ページ）してから、電源を入れてください。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

- バッテリーの残量が少なくなっています。すぐにバッテリーを充電してください。ご使用状況やバッテリーの種類によっては、バッテリー残量が5分から10分でも点滅することがあります。

このバッテリーは使えません

- NP-BD1（付属）またはNP-FD1（別売）以外のバッテリーを使っています。

システムエラー

- 電源を入れ直してください。

しばらく使用できません
カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 本機の温度が上がっています。自動的に電源が切れる場合と、動画撮影ができなくなる場合があります。本機の温度が下がるまで涼しいところに置いてください。

内蔵メモリーエラー

- 電源を入れ直してください。

“メモリースティック”を入れ直してください

- “メモリースティック デュオ”を入れ直してください。
- 本機では使えない“メモリースティック デュオ”が入っています（167ページ）。
- “メモリースティック デュオ”が壊れています。
- “メモリースティック デュオ”端子が汚れています。

非対応の“メモリースティック”です

- 本機では使えない“メモリースティック デュオ”が入っています（167ページ）。

この“メモリースティック”は記録/再生できない可能性があります

- 本機では使えない“メモリースティック デュオ”が入っています（167ページ）。

アクセス禁止の“メモリースティック”です

- アクセス制限つきの“メモリースティック デュオ”を使っています。

内蔵メモリーフォーマットエラー
“メモリースティック”フォーマットエラー

- フォーマットし直してください（56ページ）。

“メモリースティック”がロックされています

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック デュオ”を使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。

内蔵メモリーの残量がありません
“メモリースティック”の残量がありません

- 不要な画像やデータを消去してください（46、117ページ）。

読み出し専用の“メモリースティック”です

- この“メモリースティック デュオ”への画像記録や消去はできません。

画像がありません

- 内蔵メモリー内に再生可能な画像が記録されていません。
- “メモリースティック デュオ”のフォルダ内に再生可能な画像が記録されていません。
- 他機で撮影した画像を再生できない場合は、フォルダビューで再生してください（53ページ）。

対象画像がありません

- スライドショー時に、スライドショーできるファイルが存在しないフォルダを選択しています。
- 画像絞込みの対象がありません。

本機で認識できないファイルがあります

- 本機で再生できないファイルがあるフォルダを削除しようとしています。パソコンで削除してから、フォルダを削除してください。

フォルダエラー

- 上3桁の番号が同じフォルダが"メモリースティック デュオ"内にあります（例：123MSDCFと123ABCDE）。別のフォルダを選ぶか、フォルダを作成してください（57、58ページ）。

これ以上フォルダ作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダが"メモリースティック デュオ"内にあります。本機でこれ以上のフォルダを作成できません。

フォルダ内を空にしてください

- ファイルがあるフォルダを削除しようとしています。ファイルをすべて削除してから、フォルダを削除してください。

フォルダがありません

- フォルダがないのにフォルダ削除しようとしています。

フォルダがプロテクトされています

- パソコンなどで読み取り専用にしたフォルダを削除しようとしています。

ファイルエラー

- 画像再生時に異常が発生しました。
  パソコンで画像を加工したファイルや他機で撮影した画像は、本機での再生は保障しません。

読み出し専用フォルダです

- 本機で記録フォルダに設定できないフォルダを選択しました。他のフォルダを選択してください（58ページ）。

ファイルがプロテクトされています

- プロテクトを解除してください（119ページ）。

画像サイズオーバーです

- 本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしています。

無効な操作です

- デジタルズーム時、または拡大鏡モード時に画面をタッチしました。上記のモードではタッチしてピントを合わせることはできません。

対象を検出できませんでした

- 画像によっては加工できない場合があります。

（手ブレ警告表示）

- 光量不足のため、手ブレが起こりやすい状況になっているので、フラッシュを使用したり、手ブレ補正をオンにしてください。または、三脚などで本機をしっかりと固定してください。

1280×720(ファイン)に対応していません
1280×720(スタンダード)に対応していません

- [1280×720]の動画に対応しているのは"メモリースティック PRO デュオ"のみです。"メモリースティック PRO デュオ"を入れるか、画像サイズを[VGA]に設定してください。

ズームは無効です

- (拡大鏡入)時に、[デジタルズーム]が[切]になっています。または(拡大鏡入)時に、[12M]、[3:2(11M)]または[16:9(9M)]の画像サイズでスマートズームしようとしています(76ページ)。

制限枚数を超えています

- [画像選択]で選べるファイルは100枚までです。
- [日付内全て]/[イベント内全て]/[お気に入り内全て]/[フォルダ内全て]で選べるファイルは999枚までです。
- [お気に入り登録]、DPOF(プリント予約)マークが付けられるファイルは999枚までです。選択を解除してください。

電池残量不十分です

- 内蔵メモリーに記録した画像を"メモリースティック デュオ"にコピーするときは、充分に充電したバッテリーをお使いください。

プリンタービジー
用紙エラー
用紙がなくなりました
インクエラー
インクが少なくなりました
インクがなくなりました

- プリンターを確認してください。

プリンターエラー

- プリンターを確認してください。
- プリントしたい画像が壊れていないか確認してください。

- 接続しているプリンターへのデータ転送が完了していない可能性があります。
  USBケーブル(DSC-T900)または、マルチ端子専用ケーブル(DSC-T90)を抜かないでください。

処理中

- プリンターが印刷中止処理を行っています。処理が完了するまでは印刷できません。プリンターによっては処理に時間がかかることがあります。

BGMエラー

- 選択したBGMデータを削除するか、正常なデータと入れ換えてください。
- BGMフォーマットをしてから、正常なデータをダウンロードしてください。

BGM フォーマットエラー

- BGMフォーマットをし直してください。

動画ファイルでは
この操作を実行できません

- 動画に対応していない機能を使おうとしています。

非対応ファイルは
この操作を実行できません

- パソコンで画像を加工したファイルや、他機で撮影した画像は、加工などの編集機能は使えません。

PictBridge 接続中は
この操作を実行できません

- 本機とPictBridge対応プリンターを接続中は一部の機能に制限があります。

管理ファイル修復中

- パソコンで画像を削除した場合などに日付情報などを修復します。

FULL

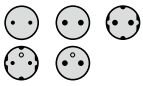
- 本機で日付やイベントを管理できる枚数をこえています。日付ビューまたはイベントビューで画像を削除してください。

管理ファイルエラー
修復できません

- 「PMB」で、すべての画像をパソコンに取り込み、"メモリースティック デュオ"または内蔵メモリーをフォーマットしてください(56ページ)。
  「PMB」で、すべての画像をパソコンに取り込めなかった場合は、「PMB」を使わずにすべての画像をパソコンに取り込んでください(137ページ)。
  再び、本機で画像を見るには、取り込んだ画像を「PMB」で本機に書き出してください。

カメラの温度が高いため
しばらく録画できません

- カメラの温度が高くなっている。下がるまで撮影できません。

カメラの温度が上がったため
録画を停止しました

- 動画記録中に温度が上昇したため、録画を停止します。温度が下がるまでお待ちください。

- 長時間動画を撮影し、カメラの温度が上がっています。動画撮影を終了してください。

海外で使うときは

バッテリーチャージャー（付属）やACアダプター AC-LS5K（別売）は全世界（AC100 V ～ 240 V・50/60 Hz）で使えます。ただし、地域によっては壁のコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねの上、ご用意ください。

コンセント形状例	地域	変換プラグアダプター
	主に北米	不要
	主にヨーロッパ	必要

ご注意

- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）は故障の原因となるので使わないでください。

“メモリースティック デュオ”について

“メモリースティック デュオ”は、小さくて軽いIC記録メディアです。“メモリースティック デュオ”のうち、本機で使えるのは下表のとおりです。ただし、すべての“メモリースティック デュオ”の動作を保証するものではありません。

“メモリースティック”の種類	記録・再生
メモリースティック デュオ(マジックゲート非対応)	○*1
メモリースティック デュオ(マジックゲート対応)	○*2
マジックゲートメモリースティック デュオ	○*1*2
メモリースティック PRO デュオ	○*2*3
メモリースティック PRO-HG デュオ	○*2*3*4

*1 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しておりません。
*2 マジックゲート搭載の“メモリースティック デュオ”です。“マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。
*3 動画の[1280×720]の記録ができます。
*4 本機は8ビットパラレルデータ転送には対応せず、“メモリースティック PRO デュオ”と同様の4ビットパラレルデータ転送を行います。

ご注意

- 本製品は“メモリースティック マイクロ”(“M2”)に対応しています。“M2”は“メモリースティック マイクロ”の略称です。
- パソコンでフォーマットした“メモリースティック デュオ”は、本機での動作を保証しません。
- お使いの“メモリースティック デュオ”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- データの読み込み中、書き込み中には“メモリースティック デュオ”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中に“メモリースティック デュオ”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- “メモリースティック デュオ”本体および“メモリースティック デュオ”アダプターにラベルなどを貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。
- “メモリースティック デュオ”スロットには、“メモリースティック デュオ”以外は入れないでください。故障の原因となります。

次のページにつづく↓

- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“メモリースティック デュオ” アダプター（別売)使用上のご注意

- “メモリースティック デュオ”を“メモリースティック”対応機器でお使いの場合は、必ず“メモリースティック デュオ”を“メモリースティック デュオ” アダプターに入れてからお使いください。アダプターに装着されていない状態で挿入されますと“メモリースティック デュオ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック デュオ”を“メモリースティック デュオ” アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認のうえ、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと正常に動作しない場合があります。
- “メモリースティック デュオ”を“メモリースティック デュオ” アダプターに装着して“メモリースティック”対応機器でご使用になるときは、正しい挿入方向をご確認のうえお使いください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
- “メモリースティック デュオ” アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されていない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

“メモリースティック PRO デュオ”(別売)使用上のご注意

本機で動作確認されている“メモリースティック PRO デュオ”は16 GBまでです。

“メモリースティック マイクロ”(別売)使用上のご注意

- “メモリースティック マイクロ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック マイクロ”をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入されますと、“メモリースティック マイクロ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック マイクロ”は小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

使用可能な“メモリースティック”についての最新情報は、ホームページ上の「“メモリースティック”対応表」をご確認ください。
http://www.sony.co.jp/mstaiou/

バッテリーについて

バッテリーの充電について

- 周囲の温度が10 ℃～ 30 ℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影、ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2 ～ 3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度満充電にして本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、スライドショー（43ページ）を再生して、電源が切れるまでそのままにしてください。
- 本機から取り出したバッテリーは、接点汚れ、ショート等を防止するため、携帯、保管時は必ず付属のバッテリーケースをご使用ください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをお買い上げください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境によってバッテリーごとに異なります。

対応バッテリーについて

- NP-BD1（付属）は、Dタイプに対応したサイバーショットにのみ使用できます。
Tタイプなどに対応したサイバーショットではお使いになれません。
- 別売のバッテリー NP-FD1をお使いになると、残量表示の後に分表示（60分）も出ます。

バッテリーチャージャーについて

- バッテリーチャージャー（付属）で、Dタイプ、Tタイプ、Rタイプ、Eタイプ以外のバッテリーを充電しないでください。
  指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- 本機に対応しているバッテリーは、Dタイプです。また、付属のバッテリーは、NP-BD1（Dタイプ）です。
- 充電したバッテリーはバッテリーチャージャーから取り出してください。そのまま取り付けていると、バッテリーの寿命を損なうことがあります。
- CHARGEランプが点滅した場合は充電中のバッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを確実に取り付けてください。再びCHARGEランプが点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。
  指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど、別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合は、バッテリーの異常が考えられます。

索引

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアである「C Library」、「Expat」、「zlib」が搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。
ライセンス内容に関しては、同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
CD-ROMの「License」フォルダにある「license1.pdf」をご覧ください。「C Library」、「Expat」、「zlib」の記載（英文）が収録されています。

本製品は、 MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているMPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：
(i)消費者が個人的、非営利の使用目的で、 MPEG-4 Visual規格に合致したビデオ信号(以下、 MPEG 4 VIDEOといいます)にエンコードすること。
(ii)MPEG-4 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。
なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、 MPEG LA, LLC.のホームページをご参照下さい。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）または、 GNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。
ソースコードは、 Webで提供しております。
ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux/
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容に関しては、同梱CD-ROMに記載されていますので、以下に示す方法にしたがって、内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
CD-ROMの「License」フォルダにある「license2.pdf」をご覧ください。「GPL」、「LGPL」の記載（英文）が収録されています。
PDFをご覧になるにはAdobe Readerが必要です。パソコンにインストールされていない場合には下記のホームページからダウンロードすることができます。
http://www.adobe.com/

CD-ROM（付属）に収録されている「Music Transfer」のライセンスに関するお知らせ

MPEG Layer-3 audio coding technology and patents licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.